

第三次計画における具体的な取組に対する【実績】

(平成 29 年度から令和元年度)

- 1 発達段階に応じた読書活動の推進
 - (1) 乳幼児期における取組 1 ～ 3 p
 - (2) 学童期から青年中期における取組 4 ～ 8 p
 - (3) 特別な支援が必要な子どものための取組 9 ～ 11 p
 - (4) 子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組 12 ～ 13 p
- 2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進 14 ～ 15 p
- 3 学校教育における読書活動の推進
 - (1) 学校図書館の機能の充実 16 ～ 18 p
 - (2) 情報を読み取り探究型の学習につなげる読書活動の推進 19 ～ 23 p
- 4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化
 - (1) 子どもの多様なニーズに対応する図書館サービスの充実 24 ～ 26 p
 - (2) 市町村立図書館等への支援 27 ～ 29 p
 - (3) 学校図書館との連携・協力 30 p
- 5 子どもの読書活動を推進する人材の育成 31 ～ 33 p



第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(1) 乳幼児期における取組

(家庭における読書活動の推進)

乳幼児期の子どもにとって、家庭は、生活の基本の場であり、子どもが本と初めて出会う場でもあります。子どもの読書習慣は、日常生活を通じて形成されるものであり、子どもが読書を楽しみ、自ら読書に親しむことができるように、保護者が意識して読書を日常生活の中に位置づけ、乳幼児期から継続して子どもの読書習慣を育んでいくことが重要です。そこで、乳幼児が、信頼できる身近な大人に読み聞かせをしてもらい、絵本の楽しさを味わうために、市町村における乳幼児健診等の機会を通して、本と出会う場づくりを支援します。また、子どもの発達段階に応じた本選びができるように、推薦図書リスト等の作成や情報提供に努めます。

(保育所・幼稚園等における読書活動の推進)

保育所・幼稚園等においては、絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わうことができる活動を積極的に行うことが必要です。そこで、一人ひとりの子どもが絵本等に親しむ機会を充実するための手立てとして、推薦図書リスト「絵本おはなし・宝箱」等を活用し、計画的な読書活動の取組が行われるよう、啓発していきます。また、保育者に対する園内研修等への支援を通して、保護者による絵本の読み聞かせの大切さを啓発するように努めています。

計画の記載内容		
	①乳幼児健診等における本と出会う場づくりの普及・促進 子どもが身近な大人を通して本と出会うために、県内全市町村において、教育委員会、市町村立図書館等や子育て支援関係の様々な機関が連携・協力して、ブックスタート応援事業等を実施しています。今後も継続して実施されるよう、情報提供や活動の支援に努め、幼児期の読み聞かせ等から発達段階に応じた働きかけや子どもの興味・関心に応じた働きかけを行うとともに、保護者も一緒になって読書に親しむことを促進します。 ・ブックスタート応援事業 ②子ども読み聞かせ運動(読育運動)の実施 子どもが成長・発達段階に応じた良い本と出会うように、継続して推薦図書リストである「絵本おはなし・宝箱」と啓発用チラシを作成し、乳幼児健診等に配付します。その際、市町村立図書館等や子育て支援関係の部局、読書ボランティア等の連携・協力により、読み聞かせや講話等を行い、家庭読書や図書館利用につながるよう働きかけます。 また、保育所・幼稚園等へも「絵本おはなし・宝箱」を配付し、保育者等が読み聞かせ等を行う時の選書の参考としたり、掲載している本が読み聞かせされたりするよう、活用を促します。 このように、乳幼児期から継続して読書活動(読み聞かせ)が行われるよう、子ども読み聞かせ運動(読育(どくい)運動)を実施します。 【重】・子ども読み聞かせ運動(読育運動)	
実施状況	成果と課題	
①乳幼児健診等における本と出会う場づくりの普及・促進 ・ブックスタート事業等の実施100% ブックスタート事業の実施(絵本のプレゼントの実施):30市町村(88.2%) 絵本のプレゼントはないが、読み聞かせ等の実施:4市町村(11.8%) ・推薦図書リスト「絵本おはなし・宝箱」と啓発用チラシを作成(7000部)、市町村配布 ②子ども読み聞かせ運動(読育運動)の実施 ・保育所や幼稚園等に推薦図書リストを配布、選書や読み聞かせ等に活用されるように促した。 配布数:乳幼児健診等 5,590部、保育所・幼稚園 576部(各園3部)	①乳幼児健診等における本と出会う場づくりの普及・促進 (成果) ・継続して取り組んできたことで、取組も定着し、セカンドブック(2町)、サードブック(1町)事業に取り組む市町村も出てきた。 (課題) ・今後も引き続き、市町村訪問等を通じ、計画的な読書活動の取組が行われるよう啓発していく必要がある。 ②子ども読み聞かせ運動(読育運動)の実施 (成果) ・県内保育所・幼稚園等の多くで読み聞かせの絵本選びや購入図書の選書に活用された。 (課題) ・市町村訪問等により啓発を進めるとともに、子どもが本に触れる機会の充実に向けて、引き続き取組を実施していく必要がある。	H29
①乳幼児健診等における本と出会う場づくりの普及・促進 ・ブックスタート応援事業の実施:推薦図書リスト「絵本 おはなし 宝箱」及び啓発用チラシの作成。(各7,000部) ・各市町村で乳幼児健診時等、保護者と乳幼児が一緒になる機会に配布し、家庭での読み聞かせを促進する。 ②子ども読み聞かせ運動(読育運動)の実施 ・保育所や幼稚園等に推薦図書リストを配布、選書や読み聞かせ等に活用されるように促す。 配布数:乳幼児健診等5,600部、保育所・幼稚園 660部(各園2部)、その他(研修、各園取組等)685部 (H30.11.12 現在)	①乳幼児健診等における本と出会う場づくりの普及・促進 (成果) ・継続して取り組んできたことで、各市町村で乳幼児健診時以外にも読み聞かせ活動の啓発が行われてきた。 (課題) ・今後も引き続き、市町村訪問等を通じ、計画的な読書活動の取組が行われるよう啓発していく必要がある。 ・「絵本 おはなし 宝箱」の発行から9年目となり、推薦図書リストも古くなってきたため、内容について協議していく必要がある。 ②子ども読み聞かせ運動(読育運動)の実施 (成果) ・継続的な啓発により、読み聞かせやブックスタートの取組について徐々に認知されてきている。 (課題) ・市町村訪問等により啓発を進めるとともに、子どもが本に触れる機会の充実に向けて、引き続き取組を実施していく必要がある。	H30
①乳幼児健診等における本と出会う場づくりの普及・促進 ②子ども読み聞かせ運動(読育運動)の実施 ・ブックスタート応援事業の実施:推薦図書リスト「絵本 おはなし 宝箱」及び啓発用チラシの作成。(各7,000部) ・各市町村で乳幼児健診時等、保護者と乳幼児が一緒になる機会に配布し、家庭での読み聞かせを促進する。 ・保育所や幼稚園等に推薦図書リストを配布、選書や読み聞かせ等に活用されるように促す。 配布数:乳幼児健診等 5,600部、保育所・幼稚園・認定こども園・保育事務所 448部(各園2部)、その他(研修、啓発等)482部	①乳幼児健診等における本と出会う場づくりの普及・促進 ②子ども読み聞かせ運動(読育運動)の実施 (成果) ・保育技術専門講座で保育関係者に直接、活動内容の紹介やリストの活用を促すことができた。 (課題) ・推薦図書リストの発行から11年(第一版 2008.1)経過し、内容の改訂が行われていない。 ・市町村によって対応に差が生じている。(親子に直接渡す。誰でも手に取れるようにラックに設置等。)	R1

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(1) 乳幼児期における取組

〔家庭における読書活動の推進〕

乳幼児期の子どものために、家庭は、生活の基本的な場であり、子どもが本と初めて出会う場でもあります。

子どもの読書習慣は、日常生活を通じて形成されるものであり、子どもが読書を楽しむ、自ら読書に親しむことができるように、保護者が意識して読書を日常生活の中に位置づけ、乳幼児期から継続して子どもの読書習慣を育てていくことが重要です。

そこで、乳幼児が、信頼できる身近な大人に読み聞かせをしてもらい、絵本の楽しさを味わうために、市町村における乳幼児健診等の機会を通して、本と出会う場づくりを支援します。また、子どもの発達段階に応じた本選びができるように、推薦図書リスト等の作成や情報提供に努めます。

〔保育所・幼稚園等における読書活動の推進〕

保育所・幼稚園等においては、絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わうことができる活動を積極的に行うことが必要です。

そこで、一人ひとりの子どもが絵本等に親しむ機会を充実するための手立てとして、推薦図書リスト「絵本おはなし宝箱」等を活用し、計画的な読書活動の取組が行われるよう、啓発していきます。また、保育者に対する園内研修等への支援を通して、保護者による絵本の読み聞かせの大切さを啓発するように努めていきます。

計画の記載内容

③保育者への園内研修等の充実
保育者に対し、指導計画等に位置付けた指導ができるよう、読書活動の意義や重要性、発達段階に応じた図書の選定、親子読書への取組等について、また、保護者や公立図書館等の職員、読書ボランティア等との連携について、園内研修等の機会を捉え啓発していきます。
・園内研修支援事業

④保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施
保育所・幼稚園等における読書活動についての調査を実施し、その結果を踏まえ、読書活動のさらなる充実のための啓発に努めていきます。

成果と課題

備考

③保育者への園内研修等の充実
・各園で行っている研修などで、日々の教育・保育における読書活動の重要性を伝え、園内研修の啓発も行った。

【読書活動の現状調査】

読書活動についての研修の実施率(%)	H25	H26	H27	H28
	60.2	69.9	69.3	69.6

③保育者への園内研修等の充実
(成果)
・読書活動に関する研修に取り組んでいる園は、平成25年度から大きな変化は見られないが、高知県教育センターで実施している保育技術専門講座(読書)への参加等により、継続的な読書活動に関する専門的な研修が行っている。

(課題)
・読書活動についての研修実施率が69%であることから、今後も園内研修などの機会をとらえ、日々の教育・保育における読書活動の大切さや取組方法についてさらに啓発する必要がある。

・園内での研修においては、絵本の選書や読み聞かせの技術、行事での絵本の活用の仕方など、日々の読書活動についての研修ニーズが高いことから、今後も教育センターと連携し、講座内容の充実を図ってきたい。

④保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施
・各園における読書活動についての調査を実施し、その結果を踏まえ、読書活動のさらなる充実を図るために、啓発を行った。

【読書活動の現状調査】

保育者への啓発の実施率(%)	H25	H26	H27	H28
	99.7	99.0	99.7	99.7

保護者・図書館職員・ボランティアなどの連携の実施率(%)	H25	H26	H27	H28
	82.8	81.9	87.7	88.3

④乳幼児健診等における本と出会う場づくりの普及・促進
②子ども読み聞かせ運動(読書運動)の実施
(成果)
・保育技術専門講座で保育関係者に直接、活動内容の紹介やリストの活用を促すことができた。

(課題)
・推薦図書リストの発行から11年(第一版 2008.1)経過し、内容の改訂が行われていない。
・市町村によって対応に差が生じている。(親子に直接渡す。誰でも手に取れるようにラックに設置等。)

③保育者への園内研修等の充実
・各園に訪問する機会を捉え、日々の教育・保育における読書活動の重要性を伝え、園内研修の啓発を行った。

【読書活動の現状調査】

指標	H25	H26	H27	H28	H29	H30	目標値
読書活動についての研修実施率(%)	69.2	69.9	69.3	69.6	77.2	79.1	81.1

③保育者への園内研修等の充実
(成果)
・98.7%の園で指導計画に読書活動の位置付けがあり、各園で絵本に親しむ機会が設けられていた。
・読書活動に関する研修に取り組んでいる園は増加傾向にある。

(課題)
・園内研修などの機会を捉え、日々の教育・保育における読書活動の大切さや取組方法についてさらに啓発を行っていく必要がある。

④保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施
・各園における読書活動についての調査を実施し、その調査結果を踏まえ、読書活動の更なる充実を図るために、啓発を行った。(小中高生との連携・交流活動において、内容充実に向けた工夫など)

【読書活動の現状調査】

指標	H29	目標値
保育所・幼稚園等における「絵本おはなし宝箱」の活用率(%)	78.1	75

指標	H25	H26	H27	H28	H29	H30	目標値
保護者・図書館職員・ボランティア等の連携の実施率(%)	82.8	81.9	87.7	88.3	86.8	86.8	95

④保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施
(成果)
・子ども読み聞かせ運動としてH29年度から保育所・幼稚園等へ「絵本おはなし宝箱」を配付し、活用を促してきた。アンケート調査による活用率は78.1%となっており、絵本購入のための選書や読み聞かせのための活用が増加している。

(課題)
・保護者への絵本紹介での活用率が低いため、多様な活用方法を各園に伝えていく必要がある。

(成果)
・図書館、小中高生や保護者との連携が増加している。特に小中高生との連携が最も増加しており、園児とのふれ合いの後、読み聞かせをする活動を取り入れている。これらの活動においては小中高の教職員との連携が必要であり、情報共有の機会もなっていると考えられる。

(課題)
・全体的に読書活動での保護者・図書館・ボランティア等との連携は伸び悩んでいる。地域の読み聞かせボランティアが読み聞かせをするよさを伝えたり、園訪問の機会に紹介したりする等、交流についても促していく必要がある。また、園児の発達や季節に合わせて絵本を借りられる図書館の絵本貸し出しのシステム等紹介していく必要がある。

③保育者への園内研修等の充実
・各園に訪問する機会に、日々の教育・保育における読書活動の重要性を伝え、園内研修の啓発を行った。

【読書活動の現状調査】

指標	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値
読書活動についての研修実施率(%)	69.2	69.9	69.3	69.6	77.2	79.1	82.8	81.1

③保育者への園内研修等の充実
(成果)
・98.6%の園で指導計画に読書活動の位置付けがあり、各園で絵本に親しむ機会が設けられていた。
・92.8%の園で、読書活動の意義や重要性、保育技術についての園内研修が実施されており、読書活動に関する研修に取り組んでいる園は、増加傾向にある。

(課題)
・若年保育者の増加により、日々の教育・保育における読書活動や取組方法についてのさらなる充実が必要である。園内研修等の機会を捉え、啓発を行っていく。

④保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施
・各園における読書活動についての調査を実施し、その調査結果を踏まえ、読書活動の更なる充実を図るために、啓発(小中高生との連携・交流活動における内容充実に向けた工夫の提案等)を行った。

【読書活動の現状調査】

指標	R1	目標値
保育所・幼稚園等における「絵本おはなし宝箱」の活用率(%)	92.9	75

指標	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値
保護者・図書館職員・ボランティア等の連携の実施率(%)	82.8	81.9	87.7	88.3	86.8	86.8	85.2	95

④保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施
(成果)
・子ども読み聞かせ運動として、H29年度から保育所・幼稚園等へ「絵本おはなし宝箱」を配付し、活用を促してきた。アンケート調査による活用率は92.9%となっており、絵本購入のための選書や読み聞かせのための絵本選びでの活用が増加している。

(課題)
・保護者への絵本紹介での活用率が低いため、多様な活用方法を各園に伝えていく必要がある。

(成果)
・保護者、地域の人、図書館職員、保護者との連携が増加している。特に小中高生との連携が最も増加しており、園児とのふれ合いの後、読み聞かせをする活動を取り入れている園が多い。これらの活動においては、小中高の教職員との連携が必要であり、情報共有の機会にもなっていると考えられる。

(課題)
・園児と小中高生との読書活動は増加しているが、園児と小中学校の教職員との読書活動は非常に少ない。保幼小接続の点からも、就学時健診や一日入学等で小中学校の教職員が読み聞かせをする機会は、子どもの発達理解や情報共有できる場となることも伝えていく必要がある。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(1) 乳幼児期における取組

(オーテピア高知図書館による支援)

オーテピア高知図書館では、子どもたちが自分自身で図書や紙芝居を手にとってゆっくり楽しめる環境と、感性と知性、倫理性と社会性を育むことができるような図書、雑誌、紙芝居、新聞等を提供します。また、お話コーナーや親子コーナーなどにおいて、「読み聞かせ」や「お話し会」等を開催するなど、様々なサービスを提供します。

計画の記載内容	
⑤子どもと本をつなぐイベントの実施 オーテピア高知図書館において、小さいころから子どもが本に親しみ、また、保護者も子どもの読書に関心を持つように、読み聞かせやストーリーテリングなどを定期的に行います。 ⑥児童図書等の資料の充実 オーテピア高知図書館では、長く子どもに読み継がれる基本的な図書やおはなしばかりでなく、視野を広げ、好奇心を育む自然や科学の絵本、在住の外国人や英語学習・多文化理解のための図書・雑誌等を収集し、提供します。	
実施状況	成果と課題
H29	⑤子どもと本をつなぐイベントの実施 (成果) ・参加者:35組(H30.3月末時点) (課題) ・オーテピア高知図書館では、おはなし会の開催回数を増やし、多くの子ども達が読書に関心をもつように働きかけを行う。 ⑥児童図書等の資料の充実 (成果) ・自然や科学の本(4類)の購入冊数:438冊(H30.3月末時点) (課題) ・英語学習や多文化理解のための図書の収集に努める。
H30	⑤子どもと本をつなぐイベントの実施 (成果) ・「ぴった～あかちゃんのおはなしかい～」延べ33回 参加613人 ・「おはなしのじかん」延べ33回 参加495人 ・「ちいさいひとたちのための絵本とおはなしにであう会」延べ15回 参加255人 ・「開館記念 平和おはなし会 ヒョウのハチ」参加15人 ・「オーテピア高知図書館開館記念事業 リレーおはなし会」参加554人 ・「手話のおはなし会」参加39人 ・展示 計22回2723冊 (H31.3 末時点) (課題) ・おはなし会の参加者を増やし、多くの子ども達が読書に関心を持つように働きかけることが必要である。 ⑥児童図書等の資料の充実 (成果) ・自然や科学の児童書(4類)の購入冊数(県立図書館分。選定支援・BM除く):220冊(H31.3 末時点) ・洋書絵本の購入冊数(県立図書館分。選定支援・BM除く):104冊(H31.3 末時点) (課題) ・様々な言語の絵本の購入が必要である。
R1	⑤子どもと本をつなぐイベントの実施 (成果) ・「ぴった～あかちゃんのおはなしかい～」延べ46回 参加775人 ・「おはなしのじかん」延べ46回 参加521人 ・「ちいさいひとたちのための絵本とおはなしにであう会」延べ10回 参加270人 ・「リレーおはなし会 in オーテピア高知図書館」延べ19回 参加842人(演者・スタッフ含) ・「夏のおはなし会」参加33人 ・「手話で楽しむおはなし会」参加68人 ・展示 計16回2200冊 (課題) ・定例行事は参加者が少ない回もあったため、行事のPRを効果的に行う必要がある。 ⑥児童図書等の資料の充実 (成果) ・県立図書館での児童書購入点数 1688点

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(2) 学童期から青年中期における取組

(小学校・中学校・義務教育学校における読書活動の推進)

小学校・義務教育学校前期課程では、家庭や保育所・幼稚園等で育んだ読書に親しむ心の芽生えを、教育課程全体で計画的に伸ばし、主体的に読書ができる子どもに育成していくことが大切です。また、中学校・義務教育学校後期課程では、多感なこの時期に自分自身を見つめ、生き方を考え、豊かな心を育むとともに、学習への動機づけや学習内容を定着させたり発展させたりするうえで読書活動は重要であり、大きな役割を果たすものです。

小・中学校・義務教育学校では、既に読書活動への様々な取組が行われています。県は、市町村教育委員会と連携して、読書活動や学校図書館の充実に必要な情報を提供するなど、小・中学校等に対して更に支援を行っていきます。

また、教職員だけでなく読書ボランティア等、地域の人とのつながりを生かしながら、児童生徒の家庭における読書を推進します。

(高等学校における読書活動の推進)

高等学校では、生徒の豊かな人間性や社会性を育て、社会の担い手としての資質を身に付けられるように、読書活動を通して、生徒の個性を伸ばし、主体的に社会の中で生きていく力を育てます。

そのために、小・中・義務教育学校における教育の成果を受け継ぎ、読書活動の充実に向けた取組や環境整備を一層進め、生徒の自主的な読書活動の促進を図るとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣を育てます。

また、興味・関心のある本との出会いや、多感な時期の悩みへの支援が実現できるよう、生徒への情報提供を進めるとともに、専門的知識や幅広い視野を身に付けるために、キャリア教育に位置づけた読書活動を推進します。

(オーテピア高知図書館による支援)

オーテピア高知図書館では、市町村立図書館等と連携しながら、学校図書館に対し、貸出やレファレンスへの協力を行い、子どもたちの学びを支えます。また、学校図書館の充実に必要となる情報の提供も行います。

計画の記載内容		
	①早ね早おき朝ごはん県民運動における読書活動の推進 児童生徒の生活習慣とともに読書習慣をチェックする「生活リズムチェックカード」を小学生(全学年)、中学生(希望校)に配付し、達成した子どもに認定証を発行する取組を継続して行い、読書活動が生活の中に定着していくように働きかけます。 ・早ね早おき朝ごはん県民運動	
	実施状況	成果と課題
H29	①早ね早おき朝ごはん県民運動における読書活動の推進 ・生活リズムチェックカードによる取組状況(H30.2/6現在) 取組人数25,849人(幼保…2,678人、小中…23,171人) (H28年度:40,409人《幼保…6,480人、小中…33,279人》)	①早ね早おき朝ごはん県民運動における読書活動の推進 (成果) ・取組への意欲も高まり、認定者の割合は高くなっている。 (H28:43.9%→H29:45.5%) (課題) ・取組人数は減少している。学校等への周知方法を検討していく必要がある。
H30	①早ね早おき朝ごはん県民運動における読書活動の推進 ・生活リズムチェックカードを活用し、規則正しい生活習慣の定着に向けた啓発を行い、生活の中での読書活動の定着を目指す。 ・生活リズムチェックカードによる取組状況現在) 取組人数37,295人(幼保6,686人、小中30,609人) (H30年度 43,467人《幼保…6,382人、小中…37,085人》)	①早ね早おき朝ごはん県民運動における読書活動の推進 (成果) 幼保の取組園数が昨年度より増加し、保幼においては意欲が高まっている。 (H29:170校 → H30:190校) また、昨年度は中学校は0校であったが、H30は1校の取組があった。 (課題) 取組人数が年々減少している。特に小中学校への周知方法を検討していく。
R1	①早ね早おき朝ごはん県民運動における読書活動の推進 ・生活リズムチェックカードを活用し、規則正しい生活習慣の定着に向けた啓発を行い、生活の中での読書活動の定着を目指す。 ・生活リズムチェックカードによる取組状況現在) 取組人数40,385人(幼保人5,051、小中35,334人) (H30年度 37,295人《幼保…6,686人、小中…30,609人》)	①早ね早おき朝ごはん県民運動における読書活動の推進 (成果) 小学校の取組人数、認定者の割合が昨年度より増加し、取組の意欲が高まっている。(H31 42.5%→R1 43.5%) また、中学校年々増加し、今年度は4校の取組があった。 (課題) 今年度は、1年ぶりに取組人数が回復したが、提出学校園所が固定化されているため、新規に提出をする取組学校園数を獲得するため、保幼小中PTA連合会の会等でも周知を行う必要がある。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(2) 学童期から青年中期における取組

(小学校・中学校・義務教育学校における読書活動の推進)

小学校・義務教育学校前期課程では、家庭や保育所・幼稚園等で育んだ読書に親しむ心の芽生えを、教育課程全体で計画的に伸ばし、主体的に読書ができる子どもに育成していくことが大切です。また、中学校・義務教育学校後期課程では、多感なこの時期に自分自身を見つめ、生き方を考え、豊かな心を育むとともに、学習への動機づけや学習内容を定着させたり発展させたりするうえで読書活動は重要であり、大きな役割を果たすものです。

小・中学校・義務教育学校では、既に読書活動への様々な取組が行われています。県は、市町村教育委員会と連携して、読書活動や学校図書館の充実に必要な情報を提供するなど、小・中学校等に対して更に支援を行っていきます。

また、教職員だけでなく読書ボランティア等、地域の人とのつながりを生かしながら、児童生徒の家庭における読書を推進します。

計画の記載内容	
②多様な読書の推進 文学的な読み物に留まらず、新聞や科学雑誌等を含めた、多様な種類の読み物に親しみ、学習にも活用できる、推薦図書リスト「きつとあるキミの心に ひびく本」を新入学児童生徒に配付します。	
実施状況	成果と課題
②多様な読書の推進 ・推薦図書リスト「きつとある キミの心に ひびく本」の掲載本を一部入れ替え(半数程度)、改訂版として配付(5/31:52,000冊)	②多様な読書の推進 (成果) ・中学校では、全く読書をしない割合は、改善傾向にある。 全く読書をしないと回答した生徒の割合 小学校 H27:16.3 → H28:17.4 → H29:18.5 中学校 H27:29.2 → H28:31.9 → H29:31.7 (課題) ・小学校において、学校図書館を活用した授業の実施率が減少している。 学校図書館を活用した授業の実施率(月数回程度) 小学校 H27:50.2 → H28:49.2 → H29:39.4 中学校 H27:11.9 → H28:14.7 → H29:23.3 ・新聞を読む児童生徒の割合が年々減少している。 新聞を読む児童生徒の割合 小学校 H27:25.2 → H28:25.6 → H29:22.2 中学校 H27:18.8 → H28:18.2 → H29:13.5
②多様な読書の推進 ・推薦図書リスト「きつとある キミの心に ひびく本」改訂版の配布。(12,000冊) ・(推薦図書リスト「きつとある キミの心に ひびく本」の実践事例の交流:10月)	②多様な読書の推進 (成果) ・中学校では、全く読書をしない割合が年々減少している。 全く読書をしないと回答した児童・生徒の割合 小学校 H27:16.3 → H28:17.4 → H29:18.5 → H30:16.1 中学校 H27:29.2 → H28:31.9 → H29:31.7 → H30:25.5 (課題) ・新聞を読む児童生徒の割合が年々減少している。 新聞を読む児童生徒の割合 小学校 H27:25.2 → H28:25.6 → H29:22.2 → H30:21.0 中学校 H27:18.8 → H28:18.2 → H29:13.5 → H30:13.8
②多様な読書の推進 ・推薦図書リスト「きつとある キミの心に ひびく本」改訂版の配付。(11,300冊)	②多様な読書の推進 (課題) ・中学校において、「全く読書をしない」と回答した割合が増加している。(全国学力・学習状況調査結果) 小学校 H27:16.3 → H28:17.4 → H29:18.5 → H30:16.1 → R1:16.1 中学校 H27:29.2 → H28:31.9 → H29:31.7 → H30:25.5 → R1:31.0 ・新聞を読む児童生徒の割合が年々減少している。(全国学力・学習状況調査結果) 小学校 H27:25.2 → H28:25.6 → H29:22.2 → H30:21.0 → R1:20.0 中学校 H27:18.8 → H28:18.2 → H29:13.5 → H30:13.8 → R1:12.7

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(2) 学童期から青年中期における取組

(小学校・中学校・義務教育学校における読書活動の推進)

小学校・義務教育学校前期課程では、家庭や保育所・幼稚園等で育んだ読書に親しむ心の芽生えを、教育課程全体で計画的に伸ばし、主体的に読書ができる子どもに育成していくことが大切です。また、中学校・義務教育学校後期課程では、多感なこの時期に自分自身を見つめ、生き方を考え、豊かな心を育むとともに、学習への動機づけや学習内容を定着させたり発展させたりするうえで読書活動は重要であり、大きな役割を果たすものです。

小・中学校・義務教育学校では、既に読書活動への様々な取組が行われています。県は、市町村教育委員会と連携して、読書活動や学校図書館の充実に必要な情報を提供するなど、小・中学校等に対して更に支援を行っていきます。

また、教職員だけでなく読書ボランティア等、地域の人とのつながりを生かしながら、児童生徒の家庭における読書を推進します。

(高等学校における読書活動の推進)

高等学校では、生徒の豊かな人間性や社会性を育て、社会の担い手としての資質を身に付けられるように、読書活動を通して、生徒の個性を伸ばし、主体的に社会の中で生きていく力を育てます。

そのために、小・中・義務教育学校における教育の成果を受け継ぎ、読書活動の充実にに向けた取組や環境整備を一層進め、生徒の自主的な読書活動の促進を図るとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣を育てます。

また、興味・関心のある本との出会いや、多感な時期の悩みへの支援が実現できるよう、生徒への情報提供を進めるとともに、専門的知識や幅広い視野を身に付けるために、キャリア教育に位置づけた読書活動を推進します。

(オーテピア高知図書館による支援)

オーテピア高知図書館では、市町村立図書館等と連携しながら、学校図書館に対し、貸出やレファレンスへの協力を行い、子どもたちの学びを支えます。また、学校図書館の充実に必要となる情報の提供も行います。

計画の記載内容

③読書楽力検定の利用と活用の推進

多様な読書の実現に向けて、様々なジャンルの本に触れるきっかけをつくるために、児童生徒に配付する「きつとある キミの心に ひびく本」と関連づけた読書楽力検定問題を毎年作成します。作成にあたっては、民間団体や児童生徒のアイデアなどを取り入れることなどの工夫を加え、活用の促進を図ります。

【重】・読書楽力検定事業

	実施状況	成果と課題
H29	③読書楽力検定の利用と活用の推進 ・8月、検定問題作成、市町村へ送付、ホームページに公開	③読書楽力検定の利用と活用の推進 (成果) ・取組人数1,659名(13小学校, 1中高校, 1個人) (課題) ・問題作成が遅れ、学校等への周知・啓発も弱かった。関係機関と連携し、取組を進めていく必要がある。
H30	③読書楽力検定の利用と活用の推進 ・10月にホームページに掲載し、市町村へ周知した。	③読書楽力検定の利用と活用の推進 (成果) ・取組人数257人(5小学校) (課題) ・選書等では図書館の知識を有する司書等との連携が必要であり、県立図書館等との連携を図ることが必要である。
R1	③読書楽力検定の利用と活用の推進 ・8月中旬にホームページに掲載し、市町村に周知した。 ・取組人数 20人(2小学校)	③読書楽力検定の利用と活用の推進 (課題) ・例年実施校が固定化している中、大規模校が実施を取り止めたこと等から、実施校、人数の大幅な減少となっている。 ・研修や図書館への訪問等の機会でも問題の冊子を配付し、周知・活用を促してきたが、実施校に広がりが見られない状況。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(2) 学童期から青年中期における取組

(高等学校における読書活動の推進)

高等学校では、生徒の豊かな人間性や社会性を育て、社会の担い手としての資質を身に付けられるように、読書活動を通して、生徒の個性を伸ばし、主体的に社会の中で生きていく力を育てます。

そのために、小・中・義務教育学校における教育の成果を受け継ぎ、読書活動の充実に向けた取組や環境整備を一層進め、生徒の自主的な読書活動の促進を図るとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣を育てます。

また、興味・関心のある本との出会いや、多感な時期の悩みへの支援が実現できるよう、生徒への情報提供を進めるとともに、専門的知識や幅広い視野を身に付けるために、キャリア教育に位置づけた読書活動を推進します。

計画の記載内容	
④学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 各校の学校経営計画や教育計画に「読書活動の推進」に関する項目を取り入れ、読書活動の重要性について学校全体での共有化を推進するとともに、読書活動推進に向けた組織的な活動がより活性化されるよう取り組みます。 また、各教科・科目、特別活動及び総合的な学習の時間、キャリア教育等、学校の教育活動全体において、学校図書館を探究的な学習の場として積極的・計画的に利用・活用し、各担当者の一層の連携のもと多様な指導の展開が図られるよう、必要な支援を行います。 【重】・高等学校学校図書館教育推進事業 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進 朝の読書活動等の一斉読書活動を一層推進するとともに、学校図書館を活用した授業づくり等を通して、生徒の主体的、探究的な学習や読書活動につながるよう取組を推進します。 また、図書委員会活動やボランティア活動等の生徒の自主的な取組がより一層創意工夫したものととなるよう支援します。 ・高等学校学校図書館教育推進事業 ⑥学校図書館の情報発信の推進 図書館便りを発行したり、学校図書館協議会等の外部団体の協力を得たりするなど、読書活動に関する情報発信の充実継続して取り組みます。 また、興味・関心や必要とする専門性に応じた資料の提供、多感な時期の悩みへの支援等、生徒の多様な要望に応えられるよう、学校図書館担当職員による情報提供を促進します。 ・高等学校学校図書館教育推進事業	
実施状況	成果と課題
H29 ④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 - 県立学校長会において、高等学校学校図書館推進事業の実施等について周知・依頼。 - 計画的かつ組織的な学校図書館活用に向けた研修会の実施。 「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅱ」(11/17 参加31名) - 内容：講義・ワークショップ「総合的な学習の時間における「探究的な学習」のデザイン～学校司書・司書教諭・教諭が協働するために～」 - 講師：国士館大学教授 桑田 てるみ氏 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進 - 読書へのきっかけ作りとして、学校の状況に応じて「朝の読書」やLH等での集団読書を導入することを推奨。 ⑥学校図書館の情報発信の推進 「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅰ・Ⅱ」を実施。 - 各校の発行物（「図書館便り」、利用案内等）の持参を依頼し、各校の取組を共有。	④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 （成果） ・学校図書館担当職員以外にも対象を広げ、学校図書館の組織的な活用に向け、必要な情報の共有化を図ることができた。 （課題） ・学校図書館の活用率向上に向け、各教科等の年間指導計画に学校図書館の活用を組み込むなど、さらに組織的、計画的な取組を進めることが必要である。 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進 （成果） ・朝の読書実施校 20校(55.6%) （課題） ・生徒個々の自主的・自発的な読書活動が十分でない。 ・家庭や学校で全く読書をしていない生徒 39.7%（学力定着把握検査 高知県オリジナルアンケート） ⑥学校図書館の情報発信の推進 （成果） ・各校の取組を共有することで、特に臨時雇用の学校司書（図書館事務補助職員）の取組の参考になっている。
H30 ④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ・計画的かつ組織的な学校図書館活用に向けた研修会の実施。 「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅱ（10月25日）」 - 内容：講義「探究的な学習と図書館」 - 講師：オーデビア高知図書館 専門企画員 山重 壮一 氏 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進 ・読書へのきっかけ作りとして、学校の状況に応じて「朝の読書」やLH等での集団読書の導入を推奨。 ⑥学校図書館の情報発信の推進 ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅰ・Ⅱ」を実施。 ・各校の発行物（「図書館便り」、利用案内等）の持参を依頼し、各校の取組を共有。	④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 （成果） ・学校図書館の組織的な活用に向け、必要な情報の共有化を図ることができた。 （課題） ・学校図書館の活用率向上及び探究的な学習の充実に向け、各教科等の年間指導計画に学校図書館の活用を組み込むなど、さらに組織的、計画的な取組を進めることが必要である。 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進 （成果） ・朝の読書実施校：20校(55.6%) （課題） ・生徒個々の自主的・自発的な読書活動が十分でない。 ・学校や家などで読書をまったくしないと回答した生徒の割合：42.2%(全日制・昼間部)（高知県オリジナルアンケート） ⑥学校図書館の情報発信の推進 （成果） ・各校の取組を共有することで、特に臨時雇用の学校司書（図書館事務補助職員）の取組の参考になっている。
RI ④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ・教育課程研究協議会において、新学習指導要領（令和4年度から年次進行で実施）の国語科改訂の要点として、読書指導の改善・充実に関する内容を周知。（8月20～23日・26日） ・学校図書館システムの再構築により、システムのクラウド化を実施。 ・主任実習助手（学校司書）による学校訪問により、学校図書館の組織的、計画的な活用や情報発信等について、各校の実習助手等に指導・助言。 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進 ・読書へのきっかけ作りとして、学校の状況に応じて「朝の読書」やLH等での集団読書の導入を推奨。 ⑥学校図書館の情報発信の推進 ・「学校図書館を活用した取組事例集」（文部科学省）の原稿として、高知農業高等学校の事例を提出。 ・主任実習助手（学校司書）による学校訪問や、学校図書館協議会（高校部、学校司書部）の協力により、読書活動に関する情報発信を継続的に実施。 ・学校図書館に関する研修会等の開催について、高等学校課から各校に情報提供。	④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 （成果） ・データベース化している蔵書情報をクラウド化したことにより、図書紹介や蔵書検索の機能がより充実し、学校間の相互検索や相互貸借も可能となった。 ・主任実習助手（学校司書）による学校訪問により、必要な情報の共有化及び相互の取組向上につながっている。 （課題） ・司書教諭及び司書を対象とした研究協議会が実施できなかった。今後は、オンラインでの開催も含め検討する必要がある。 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進 （成果） ・朝の読書実施校：18校(51.4%) （課題） ・生徒個々の自主的・自発的な読書活動が十分でない。 ・学校や家などで読書をまったくしないと回答した生徒の割合：43.7%(全日制・昼間部)（高知県オリジナルアンケート） ⑥学校図書館の情報発信の推進 （成果） ・情報発信により各校の取組を共有することで、学校図書館運営の参考になっている。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(2) 学童期から青年中期における取組

(オーテピア高知図書館による支援)

オーテピア高知図書館では、市町村立図書館等と連携しながら、学校図書館に対し、貸出やレファレンスへの協力を行い、子どもたちの学びを支えます。また、学校図書館の充実に必要となる情報の提供も行います。

計画の記載内容	
⑦図書資料の充実 オーテピア高知図書館では、長く子どもに読み継がれる基本的な図書の他に読み物だけでなく、視野を広げ、知識を深める社会や科学等の図書や資料を収集し、提供します。 ⑧ティーンズ・サービスの実施 オーテピア高知図書館では、10代の若者(ティーンズ)の興味・関心に応える図書、学習内容を深めることのできる資料等を収集し、提供します。 ⑨読書の楽しさを知るイベントの実施 オーテピア高知図書館では、ティーンズを対象に、ビブリオバトルやブックトーク等の読書の楽しさを知るイベントを行います。その際、ティーンズの参加を促すため、イベントの企画委員の募集等を工夫しながら行います。 ⑩ブックリストの作成・提供 オーテピア高知図書館では、将来を考えるものや関心を広げるものから、学習に対応したものまで、各種のブックリストを作成し、提供します。	
実施状況	成果と課題
H29 ⑦図書資料の充実 ・オーテピア高知図書館開館にむけて、視野を広げ知識を深める社会や科学等の本を多く購入した。 ⑧ティーンズ・サービスの実施 ・オーテピア高知図書館のティーンズ・コーナーに置く図書を県立図書館蔵書からピックアップした。さらに、不足する図書を発注した。 ⑨読書の楽しさを知るイベントの実施 ・ビブリオバトルを司書間で試行し、実施に当たって必要な事項を確認した。 ⑩ブックリストの作成・提供 ・ティーンズ通信を発行し、図書の紹介を行った。	⑦図書資料の充実 (成果) ・社会や科学等の本(0類から8類)の購入冊数:1,397冊(H30.3) (課題) ・オーテピア高知図書館では、長く子どもに読み継がれる基本的な図書を複本で購入する。 ⑧ティーンズ・サービスの実施 (成果) ・ティーンズ・コーナーに置く図書のピックアップに高知県立大学の学生ボランティアに参加してもらい、選書を決定した。 (課題) ・更なる図書の充実が必要である。 ⑨読書の楽しさを知るイベントの実施 (成果) ・ビブリオバトルの理解を深めた。 (課題) ・オーテピアでビブリオバトルが実施できるよう検討が必要である。 ⑩ブックリストの作成・提供 (成果) ・Sari Sari通信等で本の紹介を行っている。 (課題) ・利用者にも配布できるブックリストの作成が必要である。
H30 ⑦図書資料の充実 ・読み物、社会の本、科学の本など、様々なジャンルの児童書を購入した。 ・長く子どもに読み継がれている基本的な図書の複本を購入した。 ⑧ティーンズ・サービスの実施 ・ティーンズ・コーナーに置く図書で不足するものを発注した。 ⑨読書の楽しさを知るイベントの実施 ・ビブリオバトル実施に当たっての必要な事項を確認した。 ・(ビブリオバトル高等学校高知県大会の実施。) ⑩ブックリストの作成・提供 ・ティーンズ通信を発行し、図書の紹介を行った。	⑦図書資料の充実 (成果) ・社会や科学の児童書(0類から8類)の購入冊数(県立図書館分。選定支援・BM除く):812冊(H31.3 末時点) (課題) ・ティーンズ・コーナーの更なる充実が必要である。 ⑧ティーンズ・サービスの実施 (成果) ・ティーンズ・コーナーを設置した。 (課題) ・ティーンズ・コーナーの更なる充実が必要である。 ⑨読書の楽しさを知るイベントの実施 (課題) ・手軽にできるビブリオバトルの策定することが必要である。 ⑩ブックリストの作成・提供
R1 ⑦図書資料の充実 ・物語の絵本、科学の絵本、外国語の絵本など、様々な分野の児童書を購入した。 ⑧ティーンズ・サービスの実施 ⑨読書の楽しさを知るイベントの実施 ⑩ブックリストの作成・提供 ・テーマごとにブックリストを作成し、ウェブ・サイトに掲載した。	⑦図書資料の充実 (成果) ・県立図書館での児童書購入点数 1688点 ⑧ティーンズ・サービスの実施 (成果) ・図書館流通センター発行の『新刊図書全点案内』に記載されている、中高生向けの図書はほぼ全点購入している。 (課題) ・試験勉強用の自分が持っている参考書・問題集等の自習の席利用のためだけに来る学生が多く、他の利用者から苦情も出ている。図書館の豊富な蔵書の読書に結び付けたいが、なかなか利用に結び付かない。原因解明に取り組む必要がある。 ⑨読書の楽しさを知るイベントの実施 (成果) ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、ビブリオバトル全国大会は中止となり、高知県大会も中止した。 (課題) ・インターネットを活用したビブリオバトルが可能か検討する必要がある。 ⑩ブックリストの作成・提供 (成果) ・児童向けに作成したブックリスト 14種類

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(3) 特別な支援が必要な子どものための取組

(特別支援学校における読書活動の推進)

特別な支援を必要とする子どもが、本と出会い、読書活動の楽しさを通して自主的な読書活動ができるようにするためには、一人ひとりの状況に応じた対応を行い、習慣づけることが大切です。

県は、特別支援学校等に対して、特別な支援を必要とする子どもが、人との関わりを楽しみながら読書活動ができるよう読み聞かせやペーパーサート等の活動の充実を図ったり、読書週間や図書便り等を発行したりすることにより、図書室の活用を進めるための取組の充実に向け支援します。

また、子ども一人ひとりの障害の特性に応じた適切な支援を行うために障害の状態に配慮した図書の整備、補助具や視聴覚機器、パソコン、デジター図書等、学校図書館における図書環境の整備・充実に取り組みます。

計画の記載内容	
①特別支援学校における読書活動の充実 特別な支援を必要とする子どもが本に親しむことのできる図書の整備、教職員やボランティア等による読み聞かせ、パネルシアター、ペーパーサート、エプロンシアター、読書発表等の活動を工夫し、一人ひとりの実態に応じた読書活動や読書指導を一層推進します。 また、すべての特別支援学校で読書週間の設定や児童生徒会活動による読書活動を促し、学校図書・視聴覚便りを定期的に発行し、情報交換を行うことで学校と家庭が連携して読書活動への関心を高めるように働きかけます。 ・特別支援学校読書活動推進事業 ②特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実 特別な支援を必要とする子どものニーズを把握し、障害の特性に応じた図書の精選を行い、本の充実に努めるとともに、物流システムの利用や公立図書館の積極的な活用を促進します。また、学校図書館における書棚の高さの工夫、快適に利用するための場所や空間の確保、提示物の精選や配置の工夫、視聴覚機器や補助具等により自主的な読書活動ができるよう読書環境の整備・充実に取り組みます。	
実施状況	成果と課題
①特別支援学校における読書活動の充実 (学校) ・特別支援学校読書活動推進事業では、13校中10校が外部講師を招聘した読み聞かせや朗読、エプロンシアター、ブックトーク等、児童生徒への直接的な取組を実施した。また、指導、支援につなげるための教員向けの研修会を実施した学校もある。また、読み聞かせに合わせて音楽を取り入れるなど、子供たちの興味関心を引き出す工夫がなされている。 (本課) ・各学校の取組状況を把握するためにアンケートを実施し、収集した情報は必要に応じて各学校に伝え情報共有を図った。 ②特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実 (学校) ・各学校が障害の特性に応じた学校図書館の環境設定等について検討し、障害特性に応じた図書の購入、児童生徒が興味関心を持てるような紹介方法など工夫している。 ・特別支援学校読書活動推進事業を活用して、図書館の司書を招聘し本の修正やラベリング、分類の仕方について学び、より使いやすい図書室の環境について検討し改善に向けて取り組んだ学校があった。 ・移動図書館の利用や特色のある図書の利用、図書館の活用方法の学習等で公立図書館を積極的に活用するケースが増えてきている。 (本課) ・各学校での取組について、できるだけ情報共有するように努めている。	①特別支援学校における読書活動の充実 (成果) ・読書週間の設定や図書・視聴覚便りの発行等を行う学校は、H26年度から徐々に増えてきている。また、今年度から新たに取り組んだ特別支援学校読書活動推進事業では、各学校において管理職を中心に障害の特性に応じた読書活動の取組が検討されたことで、教員の意識の向上にもつながったことがうかがえる。 読書週間等の設定：H28 65%→H29 75% 図書・視聴覚便り等の発行：H28 75%→H29 88% (課題) ・障害の重い児童生徒に対する読書活動の充実に向け、企画の段階でどのような実践事例があるのか相談を受けることが多かった。実践事例を収集し情報提供ができるような仕組みを検討する。 ②特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実 (成果) ・公立図書館を利用して、図書館の使い方や仕事内容にも興味関心を持たせる取組など、これまでとは違った視点で図書館を利用したケースがあり読書活動の広がりが見られた。 (課題) ・児童生徒数の増加により十分な図書室のスペースを確保することが難しい学校もあるが、学校全体として本に親しむ場や時間の設定などについて、検討していくことが必要である。
①特別支援学校における読書活動の充実 ※特別支援学校本校・分校13校 (学校) ・ボランティア及び外部講師による絵本の読み聞かせ：8校 ・読書週間の設定や図書だよりの発行(11校) ※学校によっては、児童生徒が図書便りや掲示物を作成し、おすすめ本の紹介を行っている。 ・オーテピア高知図書館の利用：6校 ※校外学習で利用：4校 (本課) ・特別支援学校読書活動推進事業の取組状況の把握：9月 ・各校の取組状況の把握：アンケート実施：平成31年1月 ②特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実 (学校) ・デジター図書の活用(3校) ・移動図書館及び公共の図書館の利用(11校) ・選書会を開催(3校) ・図書の購入、本の修理、ラベリング、児童生徒が興味関心を持てるような本の紹介(全校) ・特別支援学校読書活動推進事業を活用して、図書館の司書を招聘し、学校の図書室の在り方や考え方、図書室の環境について教員研修会を行った。(2校) (本課) ・特色ある取組や読書環境の整備について、他の学校への情報提供	①特別支援学校における読書活動の充実 (成果) ・各校、障害特性に応じた取り組みを行い、読書活動の充実が図れた。 ・オーテピアや公共の図書館を利用するために、図書館の役割や利用の仕方などについて、学ぶ機会を設けるなど読書活動について興味関心を広げる学習が行われた。 ・公立図書館の活用や連携が特別支援学校全体で行われるようになった。 (課題) ・読書週間等の設定や図書・視聴覚便り等、未実施の学校へ訪問し状況確認を行うとともに実施に向けて働きかけを行う必要がある。 ・特別支援学校読書活動推進事業について、年度当初の計画が遅れていた学校があった。また、講師との日程調整が困難なため未実施の学校が1校あった。年度当初の計画の策定を行うよう周知する必要がある。 ②特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実 (成果) ・デジター図書や点字図書の活用、選書会の開催等、各校において障害に配慮した取組ができた。また、本棚の高さや配置、児童生徒が興味関心を持てるような新刊本の紹介ディスプレイなど、障害特性や発達段階に応じた図書室の活用を進めるための取組ができていた。 (課題) ・各校の取組について、他校へ情報提供が十分でなかった。各校を訪問し、図書室等設置状況等を確認するとともに他校の取組状況についても情報提供する必要がある。
①特別支援学校における読書活動の充実 ※特別支援学校本校・分校13校 (学校) ・ボランティア及び外部講師による絵本の読み聞かせ：12校 ・読書週間の設定や図書便りの発行：12校 ※新刊、おすすめ本の紹介や、読書感想コンクールの実施、読書タイムの実施、年間読書冊数による表彰等を行っている。 (全校) ・特別支援学校読書活動推進事業を活用して、外部講師による障害の状態に合わせた読み聞かせ(パネルシアター、絵本セラピー、ストーリーテリング、マルチメディアデジター等)を実施した。 (本課) ・特別支援学校読書活動推進事業の取組状況の把握：9月 ・各校の取組状況の把握(アンケート実施)：令和2年1月 ②特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実 (学校) ・デジター図書の活用：4校 ・オーテピア高知図書館の利用：6校 ・移動図書館及び公共図書館の利用：10校 ・選書会を開催(2校) ・教員対象の読み聞かせの研修会の実施 (本課) ・特色ある取組や読書環境の整備について、他の学校への情報提供を行う。	①特別支援学校における読書活動の充実 (成果) ・各学校が障害特性に応じた取組を行い、読書活動の充実を図れた。 ・各学校において、読書週間の設定や図書便りの発行等、読書活動を推進する取組が進んでいる。 ・各学校で障害の状態に合わせた読み聞かせを実施し、教員の読書指導の向上に活かすことができた。 (課題) ・特別支援学校読書活動推進事業について、教員向けの研修として実施している学校が少なかった。障害特性に応じた読み聞かせについては、教員の読書指導力向上を視点において取り組む必要がある。 ・各学校の取組については充実してきているが、それぞれの取組を情報共有する機会が少ない。学校訪問等を行い、好事例の紹介等情報提供する必要がある。 ②特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実 (成果) ・校外学習等で、オーテピア高知図書館をはじめ、地域の図書館、移動図書館等の利用する学校が増加した。 (課題) ・防災の観点から、本の落下等についての対策について検討の必要がある。 ・オーテピア高知図書館のバリアフリーサービス等、外部資源の活用を図り、障害に配慮した読書環境を充実させる必要がある。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(3) 特別な支援が必要な子どものための取組

(オーテピア高知図書館による支援)

オーテピア高知図書館は、視覚・聴覚障害など文字情報や音声・映像情報の利用がそのままでは困難な方へのサービスとして、大活字本、LLブック、朗読CD、カセットブック、音声ガイド・字幕付きDVD、さわる絵本、手話付き絵本、布絵本等を積極的に収集し、提供します。

計画の記載内容	
③多様な図書資料の充実 オーテピア高知図書館は、視覚・聴覚障害など文字情報や音声・映像情報の利用がそのままでは困難な方へのサービスとして、大活字本、LLブック、朗読CD、カセットブック、音声ガイド・字幕付きDVD、さわる絵本、手話付き絵本、布絵本等を積極的に収集し、提供します。 ④貸出サービスの充実 オーテピア高知図書館は、来館が困難な子どもが資料を利用できるように、病院・社会福祉施設等への資料の団体貸出を行います。また、障害や病気によって図書館への来館が困難な子どもには、無償で自宅等に資料を届けます。 ⑤上映会・体験会等の開催 オーテピア高知図書館において、字幕付き映画、手話付き映画、音声解説付き映画、マルチメディアデジター、音声付き電子書籍等の上映会・体験会を企画します。	
実施状況	成果と課題
H29	③多様な図書資料の充実 ・オーテピア高知図書館に向けて収集中である。 ④貸出サービスの充実 ・オーテピア高知図書館開館後に実施する。 ⑤上映会・体験会等の開催 ・オーテピア高知図書館開館後に実施する。 ③多様な図書資料の充実 (成果) ・新刊書については、図書購入費が予算措置されており、概ね必要なものを購入できている。 (課題) ・痛んだ図書の買換えが必要である。 ・未購入の既刊書のうち、購入すべき図書の確認が必要である。 ④貸出サービスの充実 (成果) ・貸出し実績はほぼ横ばいである。 (課題) 登録者を増やすことで貸出し点数の増加につなげる必要がある。 ⑤上映会・体験会等の開催 (課題) ・オーテピア開館後、施設・設備を活用し実施する。
H30	③多様な図書資料の充実 ・多様な図書資料を積極的に収集し、提供している。 ④貸出サービスの充実 ・高知声と点字の図書館と連携して、団体貸出や宅配貸出サービスを実施している。 ⑤上映会・体験会等の開催 ・12月にバリアフリー映画の上映会を開催した。 ・3月に手話で楽しむおはなし会を実施した。 ③多様な図書資料の充実 ・多様なバリアフリー資料があることを周知する必要がある。 ④貸出サービスの充実 ・サービスの周知が更に必要。 ⑤上映会・体験会等の開催 ・好評で継続の要望も出ていた。
R1	③多様な図書資料の充実 ・多様な図書資料を積極的に収集し、提供している。 ④貸出サービスの充実 ・高知声と点字の図書館と連携して、団体貸出や宅配貸出サービスを実施している。 ⑤上映会・体験会等の開催 ・9月にバリアフリー映画の上映会を開催した。 ・9月に手話で楽しむおはなし会を実施した。(3月実施予定だったが新型コロナウイルスの影響で中止した。) ③多様な図書資料の充実 (成果) ・布絵本・さわる絵本の展示を実施し、取材いただいた。 ・大活字本・LLブックは全点購入している。 ・高知声と点字の図書館と連携し、さくらバリアフリー文庫をバリアフリー資料の普及・啓発のために、県内市町村立図書館や障害者施設等に団体貸出をし、展示いただくことで資料の周知徹底に努めた。 ※さくらバリアフリー文庫…大活字本、LLブック、録音図書などをセットにしたもの。読書が困難な方でも読書を楽しめる様々な資料があることを知ってもらうことを目的に、市町村図書館コーナーで展示してもらう。 (課題) ・各種バリアフリー資料のブックリストを作成・更新し、ウェブ・サイトでの公開やイベントでの配布などにより利用を促進する。 ④貸出サービスの充実 (成果) ・出前図書館でPRすることにより、団体登録され、資料の貸出しにつながった。 ・高知声と点字の図書館と連携し、さくらバリアフリー文庫をバリアフリー資料の普及・啓発のために、県内市町村立図書館や障害者施設等に団体貸出をした。 (課題) ・サービスの周知が更に必要 ⑤上映会・体験会等の開催 (成果) ・80名の参加があった。 (課題) ・手話通訳の人材が必要。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(3) 特別な支援が必要な子どものための取組

(オーテピア高知図書館による支援)

オーテピア高知図書館は、障害のある人と情報を積極的につなぐため、多様な資料・サービス手段・コミュニケーション手段、ユニバーサルデザインの考えに沿った利用しやすい環境を整え、「だれにでも」「やさしく」利用できる図書館を目指します。また、オーテピア高知声と点字の図書館と連携して資料やサービスを提供します。

計画の記載内容	
⑥対面音訳サービスの実施 オーテピア高知図書館では、対面音訳室を3室整備し、複数のニーズに応えられるようにします。また、市町村立図書館でも対面音訳サービスが実施できるように支援します。 ⑦録音図書の提供(デジジ等) オーテピア高知図書館は、高知声と点字の図書館やサビエ図書館が提供する利用制限付き録音図書を、窓口で対象者に貸出できるようにします。録音図書の周知のため、関連団体へのサンプルの貸出についても検討します。 ⑧電子書籍の導入 オーテピア高知図書館は、読み上げ機能の活用や来館が困難な方への利便性を向上させるため、メリットやデメリットを見極めながら電子書籍を導入します。 ⑨ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施 オーテピア高知図書館は、高知声と点字の図書館と連携し、リクエストに応じて点訳や音訳、「テキスト・データ」化等の変換ができるようボランティアや協力者の養成、スキルアップ講習会等を実施します。	
実施状況	成果と課題
H29 ⑥対面音訳サービスの実施 ・対面音訳サービスは現在も実施しているが、オーテピア高知図書館では、高知声と点字の図書館と連携して実施する。 ⑦録音図書の提供(デジジ等) ・録音図書の提供は現在も、一定の範囲で実施しているが、オーテピア高知図書館では、高知声と点字の図書館と連携して実施する。 ⑧電子書籍の導入 ・児童を対象とした電子書籍の購入及び提供を開始した。 ⑨ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施 ・研修を高知市点字図書館と連携して実施している。	⑥対面音訳サービスの実施 (成果) ・休館中は高知県立大学の施設を借りて実施した。 (課題) ・開館後、オーテピア高知声と点字との連携が必要である。 ⑦録音図書の提供(デジジ等) (成果) ・サビエ図書館等により利用者へ提供を行った。 (課題) ・開館後は、声と点字の図書館と連携し取り組む必要がある。 ⑧電子書籍の導入 (成果) ・児童向け電子書籍購入点数:30点(H30.3末時点) (課題) ・今後も購入点数を増やしていく。 ⑨ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施 (成果) ・一定数のボランティアの確保はできている (課題) ・夜間の対応や専門書に対応できるボランティアの確保が必要である。
H30 ⑥対面音訳サービスの実施 ・高知声と点字の図書館と連携して実施している。 ⑦録音図書の提供(デジジ等) ・高知声と点字の図書館と連携して提供している。 ⑧電子書籍の導入 ・児童を対象とした電子書籍の提供をしている。 ⑨ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施 ・高知声と点字の図書館と連携して研修を実施している。	⑥対面音訳サービスの実施 (課題) ・サービスの周知が更に必要。 ⑦録音図書の提供(デジジ等) (課題) ・サービスの周知が更に必要。 ⑧電子書籍の導入 (成果) ・子どもの本の電子書籍サービスを実施。 (課題) ・子どもの本の電子書籍は読み上げ対応になっていないものが多く、どのように対応していくか検討していくことが必要。 ⑨ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施 (課題) ・専門的な資料に対応できるボランティアが不足している。
R1 ⑥対面音訳サービスの実施 ・高知声と点字の図書館と連携して実施している。 ⑦録音図書の提供(デジジ等) ・高知声と点字の図書館と連携して提供している。 ⑧電子書籍の導入 ・児童を対象とした電子書籍の提供をしている。 ⑨ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施 ・高知声と点字の図書館と連携して研修を実施している。	⑥対面音訳サービスの実施 (成果) ・16名、1,164件の利用実績があった。 (課題) ・サービスの周知が更に必要。 ⑦録音図書の提供(デジジ等) (課題) ・サービスの周知が更に必要。 ⑧電子書籍の導入 (成果) ・児童書の電子書籍サービスを実施。 (課題) ・児童書の電子書籍は読み上げ対応になっていないものが多く、どのように対応していくか検討していくことが必要。 ⑨ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施 (成果) ・対面音訳ボランティア養成講座、ボランティアスキルアップ研修会を実施した。 (課題) ・専門的な資料に対応できるボランティアが不足している。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(4) 子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組

子どもが本に親しみ、読書習慣を身に付けるためには、子どもの読書活動に関わる公立図書館、学校、民間団体等の関係機関の取組とともに、各機関が連携して、子どもの読書活動を総合的に推進することが重要です。
そのため、子どもの読書活動推進に向け、「子ども読書の日」や「志(こころざし)・とさ学びの日」等の機会に、県民の読書活動の機運を醸成することを目的に、読書活動の重要性の広報・啓発や、特色ある優れた実践を行っている学校、図書館、民間団体(個人)の取組を奨励し、活動の一層の充実を図ります。また、子どもの読書活動に関わる情報を家庭や地域に提供していきます。

計画の記載内容	
①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援 市町村における読書活動の取組の充実を図るため、子ども読書活動推進計画が未策定の市町村に対し、先進事例の紹介や助言等により、計画の策定を支援します。また、子ども読書活動推進計画の策定済み市町村に対しては、計画に基づく着実な推進、改正が実施されるよう支援します。 ②「子ども読書の日」(4月23日)等の啓発 「子ども読書の日」(4月23日)や「こどもの読書週間」(4月23日～5月12日)、「秋の読書週間」(10月27日～11月9日)、「志(こころざし)・とさ学びの日」(11月1日)に、読書の楽しさや意義、重要性について県民への啓発を実施します。また、公立図書館や学校等において、民間団体・読書ボランティア等と連携し、その趣旨に沿った行事や催しを実施するように働きかけます。	
実施状況	成果と課題
H29 ①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援 ・計画策定及び改訂に向け、市町村への支援ができなかった。 市町村子ども読書活動推進計画策定…33市町村 計画年限終了市町村(H30.2時点)…11市町村 ②「子ども読書の日」(4月23日)等の啓発 ・29市町村で「子ども読書の日」に関する取組を実施	①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援 (課題) ・計画策定及び改訂に向け、計画的に市町村訪問等を行い、継続的に働きかけをする必要がある。 ②「子ども読書の日」(4月23日)等の啓発 (成果) ・多くの学校や図書館で、「子ども読書の日」や「読書週間」に限らず、年間を通して読書活動に関する催しや取組が実施され、定着している。 (課題) ・未実施の市町村においては取組が実施されるよう啓発を行う必要がある。 ・今後も継続して取組が行われるよう働きかけを続ける必要がある。
H30 ①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援 ・市町村教育長や読書活動担当者への訪問を実施し、読書活動推進計画に基づく取組の推進に向けて継続して取り組まれるよう啓発を行う。 ・市町村子ども読書活動推進計画策定…33市町村 ・計画年限終了市町村(H31.4)…15市町村 ②「子ども読書の日」(4月23日)等の啓発 ・16市町村で「子ども読書の日」に関連した取組を実施予定。(H29.3調査より)	①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援 (課題) ・計画の作成はほとんどの市町村で行われているが、その改訂に取り組めていない自治体は少なくない。 ・改訂を促すような具体的な支援が必要である。 ②「子ども読書の日」(4月23日)等の啓発 (成果) ・「子ども読書の日」に対する認知度も上がり、H29に実施した調査では市町村は16であったが、今年度調査では26で飛躍的にのびた。 ・図書館の規模などに関係なく各市町村で、おすすめする本の展示や読み聞かせ、図書用品の作成など様々な取組が行われた。
R1 ①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援 ・市町村教育長や読書活動担当者への訪問を実施し、読書活動推進計画に基づく取組の推進に向けて継続して取り組まれるよう啓発を行う。 ・市町村子ども読書活動推進計画策定…33市町村 ・計画年限終了市町村(R2.10)…17市町村 ②「子ども読書の日」(4月23日)等の啓発 ・25市町村で「子ども読書の日」に関連した取組を実施予定。(H30.3調査より)	①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援 (課題) ・計画の作成はほとんどの市町村で行われているが、その改訂に取り組めていない自治体は少なくない。 ・新しい図書館の整備等で読書環境に変化が生じた市町村に対して、改訂を促すような具体的な支援が必要である。 ②「子ども読書の日」(4月23日)等の啓発 (成果) ・図書館の規模などに関係なく各市町村で、おすすめする本の展示や読み聞かせ、図書用品の作成など様々な取組が行われた。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(4) 子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組

子どもが本に親しみ、読書習慣を身に付けるためには、子どもの読書活動に関わる公立図書館、学校、民間団体等の関係機関の取組とともに、各機関が連携して、子どもの読書活動を総合的に推進することが重要です。
そのため、子どもの読書活動推進に向け、「子ども読書の日」や「志(こころざし)・とさ学びの日」等の機会に、県民の読書活動の機運を醸成することを目的に、読書活動の重要性の広報・啓発や、特色ある優れた実践を行っている学校、図書館、民間団体(個人)の取組を奨励し、活動の一層の充実を図ります。また、子どもの読書活動に関わる情報を家庭や地域に提供していきます。

計画の記載内容	
③文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発 県内の特色ある優れた実践を行っている学校、図書館、民間団体及び個人を表彰する文部科学大臣表彰制度を活用し、関係者の取組の意欲をさらに高め、活動の一層の充実を図るとともに、取組内容を県民に紹介することにより、子どもの読書活動についての関心と理解を深め、読書の機運醸成を図ります。また、文部科学大臣表彰受賞報告会を行い、ホームページや各研修会、研究大会等で紹介します。	
実施状況	成果と課題
H29 ③文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発 ・H29年7月6日に表彰受賞報告会を開催し、概要をホームページに掲載し啓発を行った。 ・平成29年受賞校・図書館・団体 ・高知市立初月小学校、四万十市立中村小学校、香美市立図書館、高知市子ども読書ボランティアの会・豆の木	③文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発 (成果) (小中学校課) ・受賞校は共に指定校であり、研究発表会において、学校図書館を活用した実践を発信できた。 ・「探求的な授業作りのための教育課程実践事業(学校図書館活用型)」のHPにおいて、受賞校の取組や実践事例等を発信することができた。 (課題) ・受賞校の取組を広く発信するため、ホームページやメールマガジンを通して普及を図ることが必要。
H30 ③文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発 ・平成30年受賞校・図書館・団体 ・高知市立春野東小学校、越知町立越知中学校、高知県立高知東工業高等学校、いの町立図書館、布絵本の会ちくちく(南国市立図書館) ・受賞校の取組や実践事例等をホームページや各研修会、研修大会等で紹介する	③文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発 (成果) (高等学校課) ・高知県学校図書館教育研究大会の分科会(高校部会)において、学校図書館活動の実践事例を発信できた。 (課題) (小中学校課) ・各教育事務所等と連携、情報共有しながら、特色ある優れた実践を行っている学校の掘り起こしが必要である。
R1 ③文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発 ・令和元年受賞校・図書館・団体 ・香南市立野市小学校、越知町立越知小学校、いの町立吾北中学校、まつぼっくり伊野小学校読み聞かせボランティア ・受賞校の取組や実践事例等をホームページや各研修会、研修大会等で紹介する	③文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発 (課題) (小中学校課) ・各教育事務所や市町村教育委員会等と連携、情報共有しながら、特色ある優れた実践を行っている学校の掘り起こしが必要である。 (高等学校課) ・各校の活動の一層の充実を図り、特色ある優れた実践の普及に努めていく必要がある。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進

子どもが自発的な読書習慣を身に付けるためには、子どもの読書活動に関わる人や地域とのつながりが重要です。公立図書館、学校、民間団体等の関係機関それぞれが工夫して取り組むとともに、各機関が連携を強め、子どもの読書活動を総合的に推進することが重要です。

計画の記載内容	
①読書活動を通じた異年齢交流の促進 小・中学生や高校生が保育所・幼稚園等で読み聞かせ等を行うなど異年齢交流や異校種間交流を推進し、この活動を通して、子どもたちが絵本や物語等の多様な本に触れたり、目的を持って本等を選び豊かに表現したりする機会をつくります。また、交流事例等をホームページ等で情報発信します。	
実施状況	成果と課題
H29	①読書活動を通じた異年齢交流の促進 (成果) (幼保支援課) ・絵本の読み聞かせなど、保育所・幼稚園等での小中学校生や高校生との交流では、実施した園が増加している。参加した生徒に事前に選書や読み聞かせのアドバイスをしており、交流がしやすくなる工夫も行っている。 (小中学校課) ・指定校では、学校図書館活用年間計画を立てて、各教科とのつながりを意識しながら実践を行っている。 ・「探求的な授業づくりのための教育課程実践事業(学校図書館活用型)」の取組や実践事例をホームページを通して発信することで普及を図っている。 (課題) ・取組内容の更なる充実に向け、保育所・幼稚園と小・中学校、高校との連携等の情報を収集し、異年齢交流・異校種間交流の優良事例の発信等が必要である。
H30	①読書活動を通じた異年齢交流の促進 (幼保支援課) ・異年齢交流を読書活動調査に位置付け、連携が図られるよう意識付けを図った。 (小中学校課) ・指定校ではリーフレットやポスター等を作成し、学校図書館にお気に入りの本を紹介するコーナーを設置するなどの異学年交流を行っている。 (成果) (幼保支援課) ・保育所・幼稚園等で行われている小中高生との交流では、絵本の読み聞かせ等を実施した園が年々増加している。選書や読み聞かせのアドバイスに加え、子どもたちが交流しやすくなるよう、園児とふれあい遊びを行った後に、読み聞かせを行う等、内容の充実が見られる園もあった。 (小中学校課) ・指定校では「学校図書館運営方針及び全体計画」「学校図書館年間活動計画」「学校図書館教育年間計画」を立てて、全教職員で共通認識を図り、各教科とのつながりを意識しながら実践を行っている。 (課題) (幼保支援課) ・異年齢交流を啓発するとともに、互いがめあてをもって取り組み、評価、振り返りを行うことで、継続した取組になるよう促していく必要がある。 (小中学校課) ・計画を基に実践はしているが、評価・検証し、改善までに至っていない。 ・指定校の研究や実践について、各学校のホームページによる発信に温度差がある。 (高等学校課) ・授業やボランティア等で園児に絵本の読み聞かせを行っている学校もあるが、各校に対しての十分な促進はできていない。
R1	①読書活動を通じた異年齢交流の促進 (幼保支援課) ・異年齢交流を読書活動調査に位置付け、連携が図られるよう意識付けを図った。 (小中学校課) ・指定校ではリーフレットやポスター等を作成し、学校図書館にお気に入りの本を紹介するコーナーを設置するなどの異学年交流を行っている。 (高等学校課) ・授業やボランティア等で園児・児童に絵本の読み聞かせを実施。 (成果) (幼保支援課) ・保育所・幼稚園等での小中高生との交流では、絵本の読み聞かせ等が多く実施されており、実施する園も年々増加傾向にある。保育者からの選書や読み聞かせの方法のアドバイスに加え、子どもたちが交流しやすくなるよう、園児とふれあい遊びを行った後に読み聞かせを行う等、内容の工夫が見られる園もあった。 (小中学校課) ・指定校では「学校図書館運営方針及び全体計画」「学校図書館年間活動計画」「学校図書館教育年間計画」を立てて、全教職員で共通認識を図り、各教科とのつながりを意識しながら実践を行っている。 (高等学校課) ・公共図書館との連携や、生徒自身が目的を持って選書することにつながっている。 (課題) (幼保支援課) ・異年齢交流の継続を啓発するとともに、互いがめあてをもって取り組み、評価、振り返りを行うことで、より充実した取組になるよう促していく必要がある。 (小中学校課) ・指定校の中には、ホームページを開設していない学校もあり、成果普及が十分には入れないため、市町村教育委員会と連携して、改善を図る必要がある。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進

子どもが自発的な読書習慣を身に付けるためには、子どもの読書活動に関わる人や地域とのつながりが重要です。公立図書館、学校、民間団体等の関係機関それぞれが工夫して取り組むとともに、各機関が連携を強め、子どもの読書活動を総合的に推進することが重要です。

計画の記載内容	
②地域学校協働本部等の仕組みを活用した読書活動の推進 地域学校協働本部事業における読み聞かせ活動に多くの地域住民や読書ボランティアに参画していただき、読書を通して地域の大人との交流を深めます。 ・地域学校協働本部事業 ③NPOと連携した読書環境の改善 NPO法人等が他の民間団体等と連携し、公立図書館未設置の中山間地域等において「出張図書館」を開催し、地域の子どもと大人が本や読み聞かせを通じて触れ合い、交流を深め、身近な生活に図書館があることの良さを実感する機会を創出します。 【重】・出張図書館事業 ④地域の教育関連施設と連携した読書活動の推進 文学館や博物館、地域の教育関連施設等と連携し、本と関わるイベント等を実施することを通して、本と読書への興味や子どもと地域とのつながりを深めます。	
実施状況	成果と課題
H29 ②学校支援地域本部等の仕組みを活用した読書活動の推進 ・学校支援地域本部等の数は大幅に増加し、地域全体で学校教育を支援する仕組みは構築されてきた。 ③NPOと連携した読書環境の改善 ・未実施 ④地域の教育関連施設と連携した読書活動の推進 ・未実施	②学校支援地域本部等の仕組みを活用した読書活動の推進 (成果) ・310ヶ所の子ども教室や児童クラブのうち約83%(258ヶ所)において、読み聞かせなどの読書支援が実施されている。 ③NPOと連携した読書環境の改善 (課題) ・図書館未設置の町村において、身近な生活に図書館のあることの良さを実感できる機会を創れるよう継続して働きかける必要がある。 ④地域の教育関連施設と連携した読書活動の推進 (課題) ・県と市町村が連携、協働し読書活動を推進していくよう働きかけを続ける必要がある。
H30 ②地域学校協働本部等の仕組みを活用した読書活動の推進 ・引き続き、支援員や読書ボランティアに参画してもらうための啓発を実施する。 ・放課後子ども教室等での読書活動の実施状況の調査を実施する。 ③NPOと連携した読書環境の改善 ・公立図書館未設置の中山間地域を中心に市町村教育長や図書館行政所管課を訪問し、図書環境の充実に向けた協議を行う。 11/12 本山町、大豊町。11/29 三原村。 ④地域の教育関連施設と連携した読書活動の推進 ・オーテピア高知図書館のサービス計画等を活用し、地域の行事やイベント等で読書活動の啓発が行われるよう、周知する。	②地域学校協働本部等の仕組みを活用した読書活動の推進 (成果) ・315ヶ所の子ども教室や児童クラブのうち約83%(263ヶ所)において、読み聞かせなどの読書支援が実施されている。 ・地域学校協働本部に読み聞かせ活動が組み込まれている小学校数:105校、中学校29校、小中一貫校1校 ③NPOと連携した読書環境の改善 (課題) 市町村訪問等を通じて、NPO法人との連携を促しているが、実施にまで至っていない。 ④地域の教育関連施設と連携した読書活動の推進 (成果) 市町村によっては、図書館と地域おこし協力隊が連携し図書イベントの開催や地域の行事に関連した図書の貸出などが行われている。
R1 ②地域学校協働本部等の仕組みを活用した読書活動の推進 ・未実施 ③NPOと連携した読書環境の改善 ・未実施 ④地域の教育関連施設と連携した読書活動の推進 ・市町村訪問等で地域の施設に対する図書館との連携の拡充に向けた助言等を行った。	②地域学校協働本部等の仕組みを活用した読書活動の推進 (成果) ・平成30年度において地域学校協働本部事業の活動・取組として報告されているだけでも、135校で読み聞かせが実施された。 (内訳:小学校105校、中学校29校、小中一貫校1校) (課題) ・地域学校協働本部事業における活動の紹介や実践発表等を通じて、学校での読み聞かせ活動に読書ボランティアグループの活用を促していく必要がある。 ・読書ボランティア養成講座の開催を地域学校協働本部にも効果的に周知をする。 ③NPOと連携した読書環境の改善 (課題) ・公立図書館が未設置の地域において、「出張図書館」を実施するには地域住民の理解や協力だけでなく、市町村教育委員会との綿密な連携が必要とされており、実施には至っていない。 ・公立図書館が未設置の地域における読書活動の改善について、NPOとの連携に限定せず、引き続き検討を進める。(オーテピア高知図書館やボランティア団体との連携等) ④地域の教育関連施設と連携した読書活動の推進 (課題) ・図書館・図書室として、新たなイベントの開催や連携体制を構築する人員が不足している。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(1) 学校図書館の機能の充実

学校図書館等は、子どもが気軽に利用でき、自分にあった本を薦めてくれる人がいるなど、魅力ある場所であることが大切です。子どもにとって、豊かな心と感性を育む読書センターとしての機能と、学習に対する興味や関心を呼び起こし、自主的・主体的な学びを支援する学習・情報センターとしての機能を充実させていきます。

計画の記載内容	
①学校図書館図書標準達成校数の拡大 市町村に対して、学校図書館の図書資料の計画的な整備(廃棄を含む)を働きかけ、児童生徒や教員等の要望に応えられる魅力ある蔵書整備が進められるよう支援します。 ②データベース化の推進 事業主体となる市町村に働きかけ、学校図書館の図書資料を管理することや児童・生徒の貸出数の把握・学習・情報センターとしての機能強化のために、蔵書情報のデータベース化を図るとともにインターネットによる検索ができる環境整備を進めます。	
実施状況	成果と課題
H29 ①学校図書館図書標準達成校数の拡大 学校図書館図書標準に達成している学校(H30.3県教委聞き取り) 小学校 125校(65.1%) 中学校 44校(42.3%) ②データベース化の推進 蔵書のデータベース化の状況(「学校図書館の現状に関する調査」結果) 小学校 H26:37% → H27:39% → H28:37% 中学校 H26:37% → H27:40% → H28:40%	①学校図書館図書標準達成校数の拡大 (成果) ・古い図書を廃棄するなど、学校図書環境整備を行っている学校が多い。 (課題) ・図書標準に達していない学校に対して、市町村教育委員会が計画的に図書を購入し増やしていく予定である。 ②データベース化の推進 (課題) ・蔵書のデータベース化の推進に向けて、引き続き未設置の市町村教育委員会へ働きかけを行う。
H30 ①学校図書館図書標準達成校数の拡大 (小中学校課) 学校図書館図書標準に達成している学校(H30.3県教育委員会聞き取り) 小学校 125校(65.1%) 中学校 44校(42.3%) ②データベース化の推進 蔵書のデータベース化の状況(「学校図書館の現状に関する調査」結果) 小学校 H26:37% → H27:39% → H28:37% 中学校 H26:37% → H27:40% → H28:40% ※H30年度 未実施	①学校図書館図書標準達成校数の拡大 (成果) ・古い図書を廃棄したり新しい本を購入したりするなど学校図書環境整備を行っている学校が多い。 (課題) ・図書標準に達していない学校に対して、市町村教育委員会を通して改善を促す。 ②データベース化の推進 (課題) ・情報担当課や市町村教育委員会との連携が必要である。
R1 ①学校図書館図書標準達成校数の拡大 学校図書館図書標準に達成している学校(H30.3県教育委員会聞き取り) 小学校 125校(65.1%) 中学校 44校(42.3%) ②データベース化の推進 蔵書のデータベース化の状況(「学校図書館の現状に関する調査」結果) 小学校 H26:37% → H27:39% → H28:37% 中学校 H26:37% → H27:40% → H28:40% ※H30年度、令和元年度は未実施。	①学校図書館図書標準達成校数の拡大 (成果) ・古い図書を廃棄したり、新しい本を購入したりする等、学校図書環境整備を行っている学校が多い。 (課題) ・図書標準に達していない学校に対して、市町村教育委員会を通して改善を促す。 ②データベース化の推進 (課題) ・情報担当課や市町村教育委員会との連携が必要である。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(1) 学校図書館の機能の充実

学校図書館等は、子どもが気軽に利用でき、自分にあった本を薦めてくれる人がいるなど、魅力ある場所であることが大切です。子どもにとって、豊かな心と感性を育む読書センターとしての機能と、学習に対する興味や関心を呼び起こし、自主的・主体的な学びを支援する学習・情報センターとしての機能を充実させていきます。

計画の記載内容		
③レファレンスの協力 オーテピア高知図書館は、県立図書館と高知市民図書館とが役割分担しながら、子どもたちの学びを支えるため、学校からのレファレンス(調べもの)に対して支援を行います。 ④バスファインダーやブックリストの作成・提供 オーテピア高知図書館は、学校図書館の資料選定に役立つバスファインダーやブックリストを作成し、提供します。 ⑤学校図書館の要望に応じたまとめ貸し オーテピア高知図書館では、県立図書館と高知市民図書館とが役割分担しながら、要望するテーマに応じた資料のまとめ貸しを学校図書館に対して行います。 ⑥学校図書館の運営・サービス等への訪問支援 オーテピア高知図書館は、学校図書館の要望に応じて、市町村立図書館職員等とともに依頼訪問を行い、運営やサービスの充実に向けた相談等の支援を行います。		
実施状況	成果と課題	
H29	③レファレンスの協力 ・電話等により対応している。 ④バスファインダーやブックリストの作成・提供 ・作成できていない。 ・オーテピア高知図書館では、全点購入した児童書のリストを作成し提供する。 ⑤学校図書館の要望に応じたまとめ貸し ・オーテピア高知図書館開館後に実施する。 ⑥学校図書館の運営・サービス等への訪問支援 ・オーテピア高知図書館開館後に実施する。	③レファレンスの協力 (成果) ・電話や窓口で対応している。 (課題) ・オーテピア開館後の繁忙期の窓口対応への対策が必要である。 ④バスファインダーやブックリストの作成・提供 ・未実施 ⑤学校図書館の要望に応じたまとめ貸し ・未実施 ⑥学校図書館の運営・サービス等への訪問支援 ・未実施
H30	③レファレンスの協力 ・電話等により対応している。 ④バスファインダーやブックリストの作成・提供 ・SariSari通信を発行し、本の紹介を行った。 ・選定支援用に購入した児童書のリストを作成した。 ⑤学校図書館の要望に応じたまとめ貸し ・県立学校(高校)に対するセット貸出等の実施を検討中である。 ・学校の授業等でニーズの高い資料の収集に努めている。 ⑥学校図書館の運営・サービス等への訪問支援 ・要望により対応している。	③レファレンスの協力 (成果) ・電話等により日常的に対応している。 (課題) ・高知市外の学校に対して、地域の市町村立図書館を利用してもらうよう促す必要がある。 ④バスファインダーやブックリストの作成・提供 (成果) ・SariSari通信を毎月1回発行(ホームページにも掲載)した。 ・SLAに、選定支援用に購入した児童書のリストを提供した。 ⑤学校図書館の要望に応じたまとめ貸し (成果) ・高校生の利用に適した図書の収集を開始した。 (課題) ・高校のニーズの把握や学校司書との連携強化が必要である。 ・学校図書館、市町村立図書館自身の蔵書の充実が必要である。 ⑥学校図書館の運営・サービス等への訪問支援 (成果) ・実施回数 1回(除籍図書選定支援) (課題) ・図書館未設置町村での学校図書館支援体制の確立が必要である。
R1	③レファレンスの協力 カウンターでは、主に高知市内の小学校からのレファレンスを受け付けている。 ④バスファインダーやブックリストの作成・提供 ・SariSari通信を発行し、本の紹介を行った。 ・テーマごとにブックリストを作成し、ウェブ・サイトに掲載した。 ・選定支援用に購入した児童書のリストを作成した。 ⑤学校図書館の要望に応じたまとめ貸し ・高校でも利用しやすいテーマを念頭にセット貸出用の資料収集を開始した。 ・高校を訪問し、図書室の利用状況やニーズ等について聞き取りを行った。 ⑥学校図書館の運営・サービス等への訪問支援 ・市町村立図書館において対応し、図書館未設置町村については、要請があれば支援を行った。	③レファレンスの協力 (課題) ・高知市外の学校に対して、地域の市町村立図書館を利用してもらうよう促す必要がある。 ④バスファインダーやブックリストの作成・提供 (成果) ・SariSari通信を毎月1回発行(ホームページにも掲載)した。 ・児童向けに作成したブックリスト 14種類 ・SLAに、選定支援用に購入した児童書のリストを提供した。 (課題) ・バスファインダーについては未着手。 ⑤学校図書館の要望に応じたまとめ貸し (成果) ・新規セット数 43セット(1,107冊) (課題) ・高校へのサービス周知と、利用の利便性向上が必要である。 ・実習助手(学校司書)との連携強化が必要である。 ⑥学校図書館の運営・サービス等への訪問支援 (成果) ・支援実施回数 4回(小中学校図書室の除籍資料選定支援) (課題) ・図書館未設置町村の学校への支援体制が課題である。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(1) 学校図書館の機能の充実

学校図書館等は、子どもが気軽に利用でき、自分にあった本を薦めてくれる人がいるなど、魅力ある場所であることが大切です。子どもにとって、豊かな心と感性を育む読書センターとしての機能と、学習に対する興味や関心を呼び起こし、自主的・主体的な学びを支援する学習・情報センターとしての機能を充実させていきます。

計画の記載内容		
⑦教科研究センターにおける情報提供 教科研究センターは、学校図書館活動に関する先進的な取組や授業実践例の情報収集及び提供・広報を行います。		
	実施状況	成果と課題
H29	⑦教科研究センターにおける情報提供 ・学校図書館活動に関する先進的な取組や実践例が掲載されている雑誌を教科研究センター本部に置き、ホームページで毎月の特集内容を情報提供している。	⑦教科研究センターにおける情報提供 (成果) ・関連する雑誌を定期購入し、その内容を周知する体制を整えることができた。 (課題) ・開架した雑誌の閲覧数が少ない。
H30	⑦教科研究センターにおける情報提供 ・学校図書館活動に関する先進的な取組や実践例が掲載されている雑誌を本部教科研究センターに置き、ホームページで毎月の特集内容を情報提供している。	⑦教科研究センターにおける情報提供 (成果) ・関連する雑誌を定期購入し、その内容を周知する体制を整えることができた。 (課題) ・開架した雑誌の閲覧数が少ない。
R1	⑦教科研究センターにおける情報提供 学校図書館活動に関する先進的な取組や実践例が掲載されている雑誌を本部教科研究センターに置き、ホームページで毎月の特集内容を情報提供している。	⑦教科研究センターにおける情報提供 (成果) 関連する雑誌を定期購入し、その内容を周知する態勢を整えている。 (課題) 開架した雑誌の閲覧数が少ない。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(2) 情報を読み取り探究型の学習につなげる読書活動の推進

(小・中・義務教育学校における取組)

小・中・義務教育学校においては、市町村教育委員会と連携して、学校の教育活動全体を通して児童生徒が読書に親しみ、読書習慣を身に付けることができるよう、各小・中・義務教育学校の学校経営計画や教育計画に読書活動を位置づけて取り組むとともに、探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型)指定校(以下「指定校」という。)における実践研究を進め、その研究成果を広く普及します。

計画の記載内容	
H29	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 市町村教育委員会と連携して、各小・中・義務教育学校の学校経営計画や教育計画に読書活動を位置づけ、各教科、総合的な学習の時間等、教育活動全体において学校図書館の組織的、計画的な活用を図ることにより読書習慣の形成を促進します。また、調べ学習等の探究的な学習等により、考える力や表現力を育成します。 ・探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型) ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 授業での学校図書館の活用方法、新聞を活用した学習活動、読書活動の促進方策や学校図書館担当者の在り方を中心に各指定校における実践研究をまとめ、ホームページ上に公開したりデータ化したりすることにより、学校へ普及啓発を行います。 【重】・探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型) ③発展的な学習の推進 児童生徒の考える力や表現力等の向上を図るために、「高知県わくドキ！ショートコメントコンテスト」や「学校新聞づくりコンクール」等の図書館資料や新聞を活用する取組を推進します。 また、指定校での取組を中心に「高知県学校図書館活動ガイドブック」「高知県学校図書館活動実践事例集」及び「きつとある キミの心に ひびく本」の活用を促し、県内への普及を行います。さらに、各教科等の学習と読書が密接に関連づけられるよう、図書館資料をもとに発展的な学習に広がる取組を促進します。 【重】・探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型)
H30 R1	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 学校図書館を計画的に利用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に図書及び新聞を生かすことで児童生徒の読書活動を充実させ、言語能力及び情報活用能力の育成を図ります。 ・学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 授業での学校図書館の活用方法、新聞を活用した学習活動、読書活動の促進方策や学校図書館担当者の在り方を中心に各指定校における実践研究をまとめ、ホームページ上に公開したりデータ化したりすることにより、学校へ普及啓発を行います。 【重】・学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業 ③発展的な学習の推進 児童生徒の考える力や表現力等の向上を図るために、「学校新聞づくりコンクール」新聞を活用する取組を推進します。 また、指定校での取組を中心に「高知県学校図書館活動ガイドブック」「高知県学校図書館活動実践事例集」及び「きつとある キミの心に ひびく本」の活用を促し、県内への普及を行います。さらに、各教科等の学習と読書が密接に関連づけられるよう、図書館資料をもとに発展的な学習に広がる取組を促進します。 【重】・学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業
実施状況	
H29	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ・「図書館資料を活用した授業を計画的に行った割合(月に数回以上)」 小学校 H28 49.2%→H29 39.4% 中学校 H28 14.7%→H29 23.3% ・「本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導した」 小学校 H28 89.0%→H29 88.0% 中学校 H28 76.1%→H29 85.1% 【全国学力・学習状況調査 学校質問紙】 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 ・重点校の研究発表会 香美市立山田小学校11/22(95名参加) 香美市立鏡野中学校11/22(181名参加) 越知町立越知小学校11/14(106名参加) 越知町立越知中学校11/14(82名参加) 宿毛市立宿毛小学校11/17(92名参加) ③発展的な学習の推進 ・「わくドキ！ショートコメントコンテスト」の実施 応募校数102校 7,079点 ・「学校新聞づくりコンクール」の実施 応募校数74校 5,710点
成果と課題	
	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 (成果) ・学校図書館を活用した授業の実施率は、中学校は増加傾向にある。 (課題) ・小学校において、学校図書館を活用した授業の実施率が減少している。 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 (成果) ・重点校の研究発表会を新学習指導要領の周知の場として悉皆研修にし、全小中学校の教員が図書や新聞を活用した授業を学ぶ場を設けたことで、普及啓発につながった。 (課題) ・研究・実践の経過・成果や授業の紹介等をホームページ等を使って情報発信することが弱い。 ③発展的な学習の推進 (成果) ・学校新聞づくりコンクールの応募校数が増加した。更なる普及を図るために、高知新聞社にも協力を得ながら、広報活動を強化していく。 (課題) ・ショートコメントコンテストの取組が定着してきた反面、マンネリ化してきたため、更なる活性化策として次の一手を検討する必要がある。

①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ・指定校の指導案検討会や公開授業研修会に指導主事が参加し、計画的・継続的に支援を行う。 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 ・指定校19校の公開授業研修会参加者数 延べ2387名(H31.3月末) 奈半利町立奈半利小学校(1月30日:47名) 香南市立赤岡小学校(5月16日:19名、6月27日:23名、10月24日:25名、12月5日:21名、1月29日:19名、) 香美市立山田小学校(6月20日:45名、10月17日:39名、10月31日:40名、11月7日:33名、11月28日:32名、2月6日:56名) 南国市立十市小学校(5月23日:24名、6月27日:20名、7月6日:6名、10月23日:10名、10月24日:24名、11月28日:23名、11月30日:7名、) 四万十町立東又小学校(6月6日:13名、10月15日:14名、11月9日:14名、11月14日:11名、11月28日:13名、1月23日:15名、) いの町立伊野南小学校(6月1日:3名、6月20日:26名、10月31日:10名、11月7日:19名、11月20日:15名、11月29日:11名、) 土佐町立土佐町中学校(5月17日:28名、6月19日:40名、7月2日:25名、7月13日:7名、9月7日:30名、10月10日:29名、11月7日:40名、12月3日:13名、2月7日:10名、2月8日:10名、2月18日:8名) 高知市立横内小学校(6月27日:39名、9月19日:40名、10月26日:22名、11月22日:21名、11月28日:37名、12月5日:23名) 四万十市立西土佐小学校(5月30日:20名、6月20日:18名、6月27日:17名、10月17日:18名、10月31日:16名、11月28日:28名) 宿毛市立宿毛小学校(6月15日:37名、11月2日:36名、2月8日:33名) 土佐市立蓮池小学校(9月4日:17名、10月22日:18名、11月12日:32名、) 高知市立はりまや橋小学校(9月12日:34名、10月19日:32名、11月22日:24名、12月12日:28名) 香美市立鏡野中学校(6月22日:19名、7月10日:17名、7月13日:20名、8月30日:14名、11月14日:79名、11月19日:13名、11月20日:16日、2月27日:15名) 中土佐町立大野見中学校(6月12日:13名、7月6日:9名、7月12日:12名、10月17日:13名、11月15日:12名、11月29日:9名、1月24日:10名) 日高村立日高中学校(6月15日:14名、7月12日:13名、11月18日:18名、12月7日:20名、2月4日:9名、2月20日:30名) 黒潮町立大方中学校(6月12日:25名、10月18日:27日、10月29日:26名、11月14日:23日、1月23日:21名、2月6日:22名) 宿毛市立片島中学校(6月6日:29名、10月31日:28名、1月30日:26日) 土佐清水市立清水中学校(6月13日:35名、10月17日:37名、11月19日:27名、1月23日:29名) 高知市立城東中学校(10月12日:22名、10月17日:14名、11月7日:28名、11月14日:34名、11月21日:8名、11月22日:22名、1月18日:10名、2月21日:12名) ・指定校の推進教諭を対象とした学校図書館活用に関する研修会の実施(全5回) 第1回「学校図書館とは」(4月10日) 第2回「読書センターの役割について」(5月21日) 第3回「情報センターとしての役割について」(10月25日) 第4回「高知県学校図書館研修会」(11月29日) 第5回「学習センターとしての役割について」(1月21日) ③発展的な学習の推進 ・「学校図書館活用ガイドブック」WG(6・8月実施) ・(学校新聞づくりコンクール)H31.1.20 実施)	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 (成果) ・指定校の公開授業を研修の場とし、小中学校の教員が図書や新聞を活用した授業を学ぶ場を設けたことで、普及啓発につながっている。 公開授業[小学校:全学年国語、中学校:全教科等] (課題) ・研究・実践の経過・成果や授業の紹介等をホームページ等を使って情報発信することが弱い。 ③発展的な学習の推進 (成果) ・高知県学校図書館協議会の協力を得ながら、内容の見直しを進めることができています。 ・学校新聞づくりコンクールへの初参加校11校。 (課題) ・学校新聞づくりコンクール参加数の大幅な減少。特に高知市内の中学校の参加が減少した。
--	---

R1	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ・指定校の研究の進捗や、研究発表会及び公開授業研修会等の内容に対して、計画的・継続的な指導・助言を行う。 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 ・指定校19校の公開授業研修会等の開催回数:89回、参加者数:延べ3,321名 ・指定校の推進教諭を対象とした学校図書館活用に関する研修会の実施(全5回) 第1回「高知県学校図書館協議会について」(4月11日) 第2回「学び方指導年間計画について」(5月14日) 第3回「新聞を作成するときの基礎基本について」(6月21日) 第4回「読書感想画について」(9月24日) 第5回「情報の取捨選択・整理について」(11月8日) ③発展的な学習の推進 ・学校新聞づくりコンクールの実施(令和2年1月19日開催)	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 (成果) ・各教育事務所等と連携し、各指定校の新卒状況等について共有化を図るとともに、計画的・継続的な指導・助言を行うことができた。 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 (成果) ・指定校の公開授業を研修の場とし、小中学校の教員が図書資料を活用した授業について研究し、学び合う場を設けたことで、授業改善につながった。また、授業における学校図書館や図書館資料の活用方法及び効果について発信することができた。 ・各指定校の実践記録を小中学校課ホームページに掲載し、各学校の研究成果と今後の取組について周知を図ることができた。 (課題) ・特に国語科において、図書館資料の活用の研究が進んだ。一方、算数・数学科や保健体育科では、図書館資料の活用について難しさを感じた学校も多く、今後とも研究を進める必要がある。 ③発展的な学習の推進 (成果) ・学校新聞づくりコンクールについて 参加校数の増加(過去最高数):99校(昨年度比: +14校) 取組数の増加:5216点(昨年度比: +418点) 応募作品数の増加(過去最高数):161点(昨年度比: +33点) (課題) ・高知市内の学校の応募数が減少した。
----	--	--

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(2) 情報を読み取り探究型の学習につなげる読書活動の推進

(高等学校における取組)

高等学校においては、生徒の豊かな人間性や社会性を育て、社会の担い手としての資質を身に付けられるように、読書活動を通して、生徒の個性を伸ばし、主体的に社会の中で生きていく力を育てます。

そのために、小・中・義務教育学校における教育の成果を受け継ぎ、読書活動の充実に向けた取組や環境整備を一層進め、生徒の自主的な読書活動の促進を図るとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣を育てます。

また、多感な時期の臨みに応えたり、興味・関心のある本と出会えたりするよう生徒への情報提供を進めるとともに、専門性や幅広い視野を身に付けるために、キャリア教育に位置づけた読書活動を推進します。

計画の記載内容	
④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進(再掲) 各校の学校経営計画や教育計画に「読書活動の推進」に関する項目を取り入れ、読書活動の重要性について学校全体での共有化を推進するとともに、読書活動推進に向けた組織的な活動がより活性化されるよう取り組みます。 また、各教科・科目、特別活動及び総合的な学習の時間、キャリア教育等、学校の教育活動全体において、学校図書館を探究的な学習の場として積極的に活用し、各担当者の一層の連携のもと多様な指導の展開が図られるよう、必要な支援を行います。 【重】・高等学校学校図書館教育推進事業 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進(再掲) 朝の読書活動等の一斉読書活動を一層推進するとともに、調べ学習等を通して、生徒の主体的、探究的な学習や読書活動につながるよう取組を推進します。 また、図書委員会活動やボランティア活動等の生徒の自主的な取組がより一層創意工夫したものとなるよう支援します。 ・高等学校学校図書館教育推進事業 ⑥学校図書館の情報発信の推進(再掲) 図書館便りを発行したり、学校図書館協議会等の外部団体の協力を得たりするなど、読書活動に関する情報発信の充実継続に取り組みます。 また、興味・関心や必要とする専門性に応じた資料の提供、多感な時期の悩みにへの支援等、生徒の多様な要望に応えられるよう、学校図書館担当職員による情報提供を促進します。 ・高等学校学校図書館教育推進事業	
実施状況	成果と課題
H29 ④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進(再掲) ・県立学校長会において、高等学校学校図書館推進事業の実施等について周知・依頼した。 ・計画的かつ組織的な学校図書館活用に向けた研修会の実施 「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅱ」 (11/17 参加31名) 内容:講義・ワークショップ「総合的な学習の時間における「探究的な学習」のデザイン～学校司書・司書教諭・教諭が協働するために～」 講師:国士館大学教授 桑田 てるみ氏 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進(再掲) ・読書へのきっかけ作りとして、学校の状況に応じて「朝の読書」やLH等での集団読書を導入することを推奨した。 ⑥学校図書館の情報発信の推進(再掲) ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅰ・Ⅱ」を実施した。 ・各校の発行物(「図書館便り」・利用案内等)の持参を依頼し、各校の取組を共有した。	④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進(再掲) (成果) ・学校図書館担当職員以外にも対象を広げ、学校図書館の組織的な活用に向け、必要な情報の共有化を図ることができた。 (課題) ・学校図書館の活用率向上に向け、各教科等の年間指導計画に学校図書館の活用を組み込むなど、さらに組織的、計画的な取組を進めることが必要である。 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進(再掲) (成果) ・朝の読書実施校 20校(55.6%) (課題) ・生徒個々の自主的・自発的な読書活動が十分でない。 ・家庭や学校で全く読書をしていない生徒 39.7% (学力定着把握検査 高知県オリジナルアンケート) ⑥学校図書館の情報発信の推進(再掲) (成果) ・各校の取組を共有することで、特に臨時雇用の学校司書(図書館事務補助職員)の取組の参考になっている。
H30 ④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進(再掲) ・計画的かつ組織的な学校図書館活用に向けた研修会の実施 「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅱ」(10月25日) 内容:講義「探究的な学習と図書館」 講師:オーテピア高知図書館 専門企画員 山重 壮一氏 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進(再掲) ・読書へのきっかけ作りとして、学校の状況に応じて「朝の読書」やLH等での集団読書を導入を推奨。 ⑥学校図書館の情報発信の推進(再掲) ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅰ・Ⅱ」を実施。 ・各校の発行物(「図書館便り」・利用案内等)の持参を依頼し、各校の取組を共有。	④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進(再掲) (成果) ・学校図書館の組織的な活用に向け、必要な情報の共有化を図ることができた。 (課題) ・学校図書館の活用率向上及び探究的な学習の充実に向け、各教科等の年間指導計画に学校図書館の活用を組み込むなど、さらに組織的、計画的な取組を進めることが必要である。 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進(再掲) (成果) ・朝の読書実施校:20校(55.6%) (課題) ・生徒個々の自主的・自発的な読書活動が十分でない。 ・学校や家などで読書をまったくしない回答した生徒の割合 42.2%(全日・昼間部)(高知県オリジナルアンケート) ⑥学校図書館の情報発信の推進(再掲) (成果) ・各校の取組を共有することで、特に臨時雇用の学校司書(図書館事務補助職員)の取組の参考になっている。
RI ④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進(再掲) ・教育課程研究協議会において、新学習指導要領(令和4年度から年次進行で実施)の国語科改訂の要点として、読書指導の改善・充実に関する内容を周知。(8月20～23日・26日) ・学校図書館システムの再構築により、システムのクラウド化を実施。 ・主任実習助手(学校司書)による学校訪問により、学校図書館の組織的、計画的な活用や情報発信等について、各校の実習助手等に指導・助言。 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進(再掲) ・読書へのきっかけ作りとして、学校の状況に応じて「朝の読書」やLH等での集団読書を導入を推奨。 ⑥学校図書館の情報発信の推進(再掲) ・「学校図書館を活用した取組事例集」(文部科学省)の原稿として、高知農業高等学校の事例を提出。 ・主任実習助手(学校司書)による学校訪問や、学校図書館協議会(高校部、学校司書部)の協力により、読書活動に関する情報発信を継続的に実施。 ・学校図書館に関する研修会等の開催について、高等学校課から各校に情報提供。	④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進(再掲) (成果) ・データベース化している蔵書情報をクラウド化したことにより、図書紹介や蔵書検索の機能がより充実し、学校間の相互検索や相互貸借も可能となった。 ・主任実習助手(学校司書)による学校訪問により、必要な情報の共有化及び相互の取組向上につながっている。 (課題) ・司書教諭及び司書を対象とした研究協議会が実施できなかった。今後は、オンラインでの開催も含め検討する必要がある。 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進(再掲) (成果) ・朝の読書実施校:18校(51.4%) (課題) ・生徒個々の自主的・自発的な読書活動が十分でない。 ・学校や家などで読書をまったくしない回答した生徒の割合:43.7%(全日・昼間部)(高知県オリジナルアンケート) ⑥学校図書館の情報発信の推進(再掲) (成果) ・情報発信により各校の取組を共有することで、学校図書館運営の参考になっている。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(2) 情報を読み取り探究型の学習につなげる読書活動の推進

(小・中・義務教育学校における取組)

小・中・義務教育学校においては、市町村教育委員会と連携して、学校の教育活動全体を通して児童生徒が読書に親しみ、読書習慣を身に付けることができるよう、各小・中・義務教育学校の学校経営計画や教育計画に読書活動を位置づけて取り組むとともに、探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型)指定校(以下「指定校」という。)における実践研究を進め、その研究成果を広く普及します。

(高等学校における取組)

高等学校においては、生徒の豊かな人間性や社会性を育て、社会の担い手としての資質を身に付けられるように、読書活動を通して、生徒の個性を伸ばし、主体的に社会の中で生きていく力を育てます。

そのために、小・中・義務教育学校における教育の成果を受け継ぎ、読書活動の充実に向けた取組や環境整備を一層進め、生徒の自主的な読書活動の促進を図るとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣を育てます。

また、多感な時期の悩みに応えたり、興味・関心のある本と出会えたりするよう生徒への情報提供を進めるとともに、専門性や幅広い視野を身に付けるために、キャリア教育に位置づけた読書活動を推進します。

計画の記載内容

⑦調べ学習に役立つ資料の収集・提供

オーデビア高知図書館は、子どもたちの疑問や好奇心に応え、調べ学習に役立つ図書を収集し、提供することによって、学校図書館、市町村立図書館等の蔵書では足りない部分を補います。

	実施状況	成果と課題
H29	⑦調べ学習に役立つ資料の収集・提供 ・視野を広げ知識を深める社会や科学等の本を多く購入した。	⑦調べ学習に役立つ資料の収集・提供 (成果) ・社会や科学等の本(0類から8類)の購入冊数:1,379冊(H30.3月末時点) (課題) ・教科書の単元となっているテーマに関しては複本を購入する必要がある。
H30	⑦調べ学習に役立つ資料の収集・提供 ・様々なジャンルの調べ学習に役立つ児童書を購入した。	⑦調べ学習に役立つ資料の収集・提供 (成果) ・社会や科学の児童書(0類から8類)の購入冊数(県立図書館分。選定支援・BM除く):812冊(H31.3 末時点) (課題) ・教科書の単元となっているテーマに関しては複本を購入する必要がある。
R1	⑦調べ学習に役立つ資料の収集・提供 ・様々なジャンルの調べ学習に役立つ児童書を購入した。	⑦調べ学習に役立つ資料の収集・提供 (成果) ・社会や科学の児童書(0類から8類)の購入冊数(県立図書館分。選定支援・BM除く):812冊(H31.3 末時点) (課題) ・教科書の単元となっているテーマに関しては複本を購入する必要がある。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(1) 子どもの多様なニーズに対応する図書館サービスの充実

オーテピア高知図書館は、子どもたちの読書習慣の定着や読書環境・情報環境等の一層の充実・活性化を図るため、関係機関と協力・連携しながら、サービスの充実・強化に取り組みます。
また、子どもに小さいころから読書に親しみ習慣を身に付けてもらうため、乳幼児期から本に触れる機会の提供や読書の魅力を発信する人材育成などを行います。
また、市町村立図書館等への協力貸出や市町村職員等を対象とした研修を実施することなどにより、市町村立図書館等に対する支援を行います。

計画の記載内容	
①レファレンスの充実 オーテピア高知図書館では、児童・青少年の調べ学習や日常の疑問に応えるレファレンス・サービスの充実を図ります。 ②児童・青少年向け図書等の資料の充実 オーテピア高知図書館では、しかけ絵本や特大絵本など子どもたちの興味や好奇心を引く絵本、外国語や語学の図書、デジタル資料や新聞等の多様な資料を収集し、提供します。 また、大活字本、LLブック、朗読CD、カセットブック、音声ガイド、字幕付きDVD、さわる絵本、布絵本、さらに、文字情報が苦手な子どもにもマンガで情報を伝えられる資料も収集し、提供します。 ③電子書籍の導入(再掲) 読み上げ機能の活用や来館が困難な方への利便性を向上させるため、メリットやデメリットを見極めながら電子書籍を導入します。 ④調べ学習に役立つ資料の収集・提供(再掲) 子どもたちの疑問や好奇心に応え、調べ学習に役立つ図書を収集し、提供することによって、学校図書館、市町村立図書館等の蔵書では足りない部分を補います。 ⑤ティーンズ・サービスの実施(再掲) 10代の若者(ティーンズ)の興味・関心に応える図書、学習内容を深めることのできる資料等を収集し、提供します。	
実施状況	成果と課題
①レファレンスの充実 ・調べ学習や日常の疑問に応えるレファレンス・サービスを行っている。 ②児童・青少年向け図書等の資料の充実 ・子どもたちの興味や好奇心を引く絵本を購入した。 ③電子書籍の導入(再掲) ・児童を対象とした電子書籍の購入及び提供を開始した。 ④調べ学習に役立つ資料の収集・提供(再掲) ・視野を広げ知識を深める社会や科学等の本を多く購入した。 ⑤ティーンズ・サービスの実施(再掲) ・オーテピア高知図書館のティーンズ・コーナーに置く図書を県立図書館蔵書からピックアップした。さらに、不足する図書を発注した。	①レファレンスの充実 (成果) ・所蔵や事項についてのレファレンス:2,134件(H30.3月末時点) (課題) ・調べ学習や日常の疑問に応えるためのレファレンス・ブックを充実させる。 ②児童・青少年向け図書等の資料の充実 (成果) ・絵本の購入冊数:638冊(H30.3月末時点) (課題) ・外国語や語学の図書を充実させる。 ③電子書籍の導入(再掲) ・特記事項なし ④調べ学習に役立つ資料の収集・提供(再掲) (成果) ・社会や科学等の本(0類から8類)の購入冊数:1397冊(H30.3月末時点) (課題) ・教科書の単元となっているテーマに関しては複本を購入する必要がある。 ⑤ティーンズ・サービスの実施(再掲) (成果) ・ティーンズ・コーナーに置く図書のピックアップに高知県立大学の学生のボランティアに参加してもらい、図書館の担当司書のチェック後、新図書館のティーンズ・コーナーに置く図書を決めた。 (課題) ・オーテピア高知図書館のティーンズ・コーナーの充実に向けての図書購入。
①レファレンスの充実 ・調べ学習や日常の疑問に応えるレファレンス・サービスを行っている。 ②児童・青少年向け図書等の資料の充実 ・子どもたちの興味や好奇心を引く絵本を購入した。 ③電子書籍の導入(再掲) ・児童を対象とした電子書籍の購入及び提供を開始した。 ④調べ学習に役立つ資料の収集・提供(再掲) ・視野を広げ知識を深める社会や科学等の本を多く購入した。 ⑤ティーンズ・サービスの実施(再掲)	①レファレンスの充実 (成果) ・レファレンス件数(全体):所蔵4,194件 事項25,847件 (H31.3月末時点) (課題) ・調べ学習や日常の疑問に応えるためのレファレンス・ブックを充実させる。 ②児童・青少年向け図書等の資料の充実 (成果) ・絵本の購入冊数:834冊(H31.3月末時点) (課題) ・外国語や語学の図書を充実させる。 ③電子書籍の導入(再掲) ④調べ学習に役立つ資料の収集・提供(再掲) (成果) ・社会や科学の児童書(0類から8類)の購入冊数(県立図書館分。選定支援・BM除く):812冊(H31.3 末時点) (課題) ・教科書の単元となっているテーマに関しては複本を購入する必要がある。 ⑤ティーンズ・サービスの実施(再掲)
①レファレンスの充実 ・調べ学習や日常の疑問に応えるレファレンス・サービスを行っている。 ②児童・青少年向け図書等の資料の充実 ・子どもたちの興味や好奇心を引く絵本を購入した。 ③電子書籍の導入(再掲) ④調べ学習に役立つ資料の収集・提供(再掲) ・様々な分野の調べ学習に役立つ児童書を購入した。 ⑤ティーンズ・サービスの実施(再掲)	①レファレンスの充実 (成果) ・レファレンス件数(子どもカウンター) 所蔵7301件 事項799件 ②児童・青少年向け図書等の資料の充実 (成果) ・県立図書館での絵本の購入点数 715冊 (課題) ・さわる絵本やしかけ絵本を積極的に購入する必要がある。 ③電子書籍の導入(再掲) (成果) ・児童書の電子書籍サービスを実施。 (課題) ・児童書の電子書籍は読み上げ対応になっていないものが多く、どのように対応していくか検討していく必要がある。 ④調べ学習に役立つ資料の収集・提供(再掲) (成果) ・県立図書館での児童書購入点数 1688点 ⑤ティーンズ・サービスの実施(再掲) (成果) ・図書館流通センター発行の『新刊図書全点案内』に記載されている、中高生向けの図書はほぼ全点購入している。 (課題) ・試験勉強用の自分が持っている参考書・問題集等の自習の席利用のためだけに来る学生が多く、他の利用者から苦情も出ている。図書館の豊富な蔵書の読書に結び付けたいが、なかなか利用に結び付かない。原因解明に取り組む必要がある。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(1) 子どもの多様なニーズに対応する図書館サービスの充実

オーテピア高知図書館は、子どもたちの読書習慣の定着や読書環境・情報環境等の一層の充実・活性化を図るため、関係機関と協力・連携しながら、サービスの充実・強化に取り組みます。
また、子どもに小さいころから読書に親しむ習慣を身に付けてもらうため、乳幼児期から本に触れる機会の提供や読書の魅力を発信する人材育成などを行います。
また、市町村立図書館等への協力貸出や市町村職員等を対象とした研修を実施することなどにより、市町村立図書館等に対する支援を行います。

計画の記載内容	
⑥物流便による資料の配送 休館日を除き、毎日、協力貸出や相互貸借の資料を市町村に発送します。 ⑦子どもと本をつなぐイベントの実施(再掲) 小さいころから子どもが本に親しみ、また、保護者も子どもの読書に関心を持つように、読み聞かせやストーリーテリングなどを定期的に行います。 ⑧読書の楽しさを知るイベントの実施(再掲) ティーンズを対象に、ビブリオバトルやブックトーク等の読書の楽しさを知るイベントを行います。その際、ティーンズの参加を促すため、イベントの企画委員の募集等を工夫しながら行います。 ⑨読み聞かせ研修会や講座の実施 保護者や市町村立図書館職員、ボランティアなどを対象とした読み聞かせ研修会や講習会を実施します。 ⑩上映会・体験会の開催(再掲) 字幕付き映画、手話付き映画、音声解説付き映画、マルチメディアデジ、音声付き電子書籍等の上映会・体験会を企画します。	
実施状況	成果と課題
⑥物流便による資料の配送 ・実施している。 ⑦子どもと本をつなぐイベントの実施(再掲) ・県立図書館において、毎月第3水曜日(8月を除く)に「LimLim～赤ちゃんのためのおはなし会～」を行った。 ⑧読書の楽しさを知るイベントの実施(再掲) ・ビブリオバトルを司書間で試行し、実施に当たって必要な事項を確認した。 ⑨読み聞かせ研修会や講座の実施 ・図書館サービス基礎研修(児童サービス編)にて、市町村図書館職員等を対象とした読み聞かせ研修を行った。 ⑩上映会・体験会の開催(再掲) ・オーテピア高知図書館開館後に実施する。	⑥物流便による資料の配送 (成果) ・発送冊数:65,825冊 ⑦子どもと本をつなぐイベントの実施(再掲) (成果) ・参加者:35組(H30.3月末時点) (課題) ・オーテピア高知図書館では、おはなし会の開催回数を増やし、多くの子ども達が読書に関心をもつように働きかけを行う。 ⑧読書の楽しさを知るイベントの実施(再掲) (成果) ・ビブリオバトルについて理解した。 (課題) ・オーテピア高知図書館でのビブリオバトルの実施。 ⑨読み聞かせ研修会や講座の実施 (成果) ・図書館サービス基礎研修(児童サービス編):19名参加 (課題) ・保護者を対象とした読み聞かせ講習会を行った。 ⑩上映会・体験会の開催(再掲) (課題) ・オーテピア開館後は、施設・設備を活用し実施する。
⑥物流便による資料の配送 ・実施している。 ⑦子どもと本をつなぐイベントの実施(再掲) ・オーテピア高知図書館において、各種おはなし会を実施。 ・児童書の展示を実施。 ⑧読書の楽しさを知るイベントの実施(再掲) ・ビブリオバトルを司書間で試行し、実施に当たって必要な事項を確認した。 ⑨読み聞かせ研修会や講座の実施 ・ストーリーテリング勉強会を開催した。 ・「楽しみながら学ぶおはなしの連続講座Ⅳ」を共催として開催した。(主催:高知市子ども読書ボランティアの会・豆の木) ⑩上映会・体験会の開催(再掲) ・12月に「アプリー映画」の上映会を開催した。 ・3月に手話で楽しむおはなし会を実施した。	⑥物流便による資料の配送 (成果) ・送付総冊数:99,019冊(返送を含む全体数) ⑦子どもと本をつなぐイベントの実施(再掲) (成果) 「ぴった～あかちゃんのおはなしかい～」延べ33回 参加613人 「おはなしのじかん」延べ33回 参加495人 「ちいさいひとたちのための絵本とおはなしにであう会」延べ15回 参加554人 「開館記念 平和おはなし会 ヒョウのハチ」参加15人 「オーテピア高知図書館開館記念事業 リレーおはなし会」参加554人 「年経のおはなし会」参加39人 ・展示 計22回2723冊 (H31.3 末時点) (課題) ・おはなし会の参加者を増やし、多くの子ども達が読書に関心を持つように働きかける必要がある。 ⑧読書の楽しさを知るイベントの実施(再掲) ⑨読み聞かせ研修会や講座の実施 (成果) ・楽しみながら学ぶおはなしの連続講座Ⅳ 延べ7回 参加188人 ・ストーリーテリング勉強会 延べ7回 参加57人 ⑩上映会・体験会の開催(再掲) ・好評で継続の要望も出ていた。
⑥物流便による資料の配送 ・継続して実施している。 ⑦子どもと本をつなぐイベントの実施(再掲) ・オーテピア高知図書館において、各種おはなし会を実施。 ・児童書の展示を実施。 ⑧読書の楽しさを知るイベントの実施(再掲) ⑨読み聞かせ研修会や講座の実施 ・ストーリーテリング勉強会を開催した。 ・「楽しみながら学ぶおはなしの連続講座Ⅴ」を共催として開催した。(主催:高知市子ども読書ボランティアの会・豆の木) ⑩上映会・体験会の開催(再掲)	⑥物流便による資料の配送 (成果) ・送付総冊数 121,044冊 ・R2年度から、全高校にサービス対象を拡充する。 (課題) ・高校に対してサービスの周知を強化する必要がある。 ⑦子どもと本をつなぐイベントの実施(再掲) (成果) 「ぴった～あかちゃんのおはなしかい～」延べ46回 参加775人 「おはなしのじかん」延べ46回 参加521人 「ちいさいひとたちのための絵本とおはなしにであう会」延べ10回 参加270人 「リレーおはなし会 in オーテピア高知図書館」延べ19回 参加842人(演者・スタッフ含) ・「夏のおはなし会」参加33人 ・「手話で楽しむおはなし会」参加68人 ・展示 計16回2200冊 (課題) ・定例行事は参加者が少ない回もあったため、行事のPRを効果的に行う必要がある。 ⑧読書の楽しさを知るイベントの実施(再掲) ⑨読み聞かせ研修会や講座の実施 (成果) ・ストーリーテリング勉強会 延べ10回 参加82人 ・楽しみながら学ぶおはなしの連続講座Ⅴ 延べ7回 参加216人 ⑩上映会・体験会の開催(再掲)

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(1) 子どもの多様なニーズに対応する図書館サービスの充実

オーテピア高知図書館は、子どもたちの読書習慣の定着や読書環境・情報環境等の一層の充実・活性化を図るため、関係機関と協力・連携しながら、サービスの充実・強化に取り組みます。
また、子どもに小さいころから読書に親しむ習慣を身に付けてもらうため、乳幼児期から本に触れる機会の提供や読書の魅力を発信する人材育成などを行います。
また、市町村立図書館等への協力貸出や市町村職員等を対象とした研修を実施することなどにより、市町村立図書館等に対する支援を行います。

計画の記載内容	
⑪ブックリストの作成・提供(再掲) ティーンズを対象に、将来を考えるものや関心を広げるものから、学習に対応したものまで各種のブックリストを作成し、提供します。 ⑫録音図書の提供(デジター等)(再掲) 高知声と点字の図書館やサビエ図書館が提供する利用制限付き録音図書等を図書館で、対象者に貸出できるようにします。 録音図書の周知のため、関連団体へのサンプルの貸出についても検討します。 ⑬対面音訳サービスの実施(再掲) オーテピア高知図書館では、対面音訳室を3室整備し、複数のニーズに応えられるようにします。また、市町村立図書館でも対面音訳サービスが実施できるよう支援します。 ⑭貸出サービスの充実(再掲) 来館が困難な子どもが資料を利用できるように、病院・社会福祉施設等への資料の団体貸出を行います。また、障害や病気により来館が困難な子どもには、無償で自宅等に資料を届けます。 ⑮ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施(再掲) 高知声と点字の図書館と連携し、リクエストに応じて点訳や音訳、「テキスト・データ」化等の変換ができるようボランティアや協力者の養成、スキルアップ講習会等を実施します。	
実施状況	成果と課題
⑪ブックリストの作成・提供(再掲) ・ティーンズ通信を発行し、図書の紹介を行った。 ⑫録音図書の提供(デジター等)(再掲) ・録音図書の提供は現在も、一定の範囲で実施しているが、オーテピア高知図書館では、高知声と点字の図書館と連携して実施する。 ⑬対面音訳サービスの実施(再掲) ・対面音訳サービスは現在も実施しているが、オーテピア高知図書館では、高知声と点字の図書館と連携して実施する。 ⑭貸出サービスの充実(再掲) ・オーテピア高知図書館開館後に実施する。 ⑮ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施(再掲) ・研修を高知市点字図書館と連携して実施している。	⑪ブックリストの作成・提供(再掲) (成果) ・SariSari通信等で本を紹介している。 (課題) ・利用者に配布できるブックリストの作成。 ⑫録音図書の提供(デジター等)(再掲) (成果) ・サビエ図書館等により利用者に提供した。 (課題) ・オーテピア開館後は、オーテピア高知声と点字の図書館と連携して実施する。 ⑬対面音訳サービスの実施(再掲) (成果) ・休館中は高知県立大学図書館のスペースを借りて実施した。 (課題) ・オーテピア開館後は、オーテピア高知声と点字の図書館と連携して実施する。 ⑭貸出サービスの充実(再掲) (成果) ・貸出実績がほぼ横ばいである。 (課題) ・図書館の登録者を増やし、貸出点数を伸ばす。 ⑮ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施(再掲) (成果) ・一定数のボランティアは確保できている。 (課題) ・夜間対応できるボランティア、専門書に対応できるボランティアがいない。
⑪ブックリストの作成・提供(再掲) ・ティーンズ通信を発行し、図書の紹介を行った。 ⑫録音図書の提供(デジター等)(再掲) ・高知声と点字の図書館と連携して提供している。 ⑬対面音訳サービスの実施(再掲) ・高知声と点字の図書館と連携して実施している。 ⑭貸出サービスの充実(再掲) ・高知声と点字の図書館と連携して、団体貸出や宅配貸出サービスを実施している。 ⑮ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施(再掲) ・高知声と点字の図書館と連携して研修を実施している。	⑪ブックリストの作成・提供(再掲) (課題) ・窓口が繁忙になってきて、十分に行えなくなっているため、体制の確立が必要。 ⑫録音図書の提供(デジター等)(再掲) (課題) ・サービスの周知が必要。 ⑬対面音訳サービスの実施(再掲) (課題) ・サービスの周知が必要。 ⑭貸出サービスの充実(再掲) ・サービスの周知が必要。 ⑮ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施(再掲) (課題) ・専門的な資料に対応できるボランティアが少ない。
⑪ブックリストの作成・提供(再掲) ・テーマごとにブックリストを作成し、ウェブ・サイトに掲載した。 ⑫録音図書の提供(デジター等)(再掲) ・高知声と点字の図書館と連携して提供している。 ⑬対面音訳サービスの実施(再掲) ・高知声と点字の図書館と連携して実施している。 ⑭貸出サービスの充実(再掲) ・高知声と点字の図書館と連携して、団体貸出や宅配貸出サービスを実施している。 ⑮ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施(再掲) ・高知声と点字の図書館と連携して研修を実施している。	⑪ブックリストの作成・提供(再掲) (成果) ・児童向けに作成したブックリスト 14種類 ⑫録音図書の提供(デジター等)(再掲) (課題) ・サービスの周知が更に必要。 ⑬対面音訳サービスの実施(再掲) (成果) ・15名、1,164件の利用実績があった。 (課題) ・サービスの周知が更に必要。 ⑭貸出サービスの充実(再掲) (成果) ・出前図書館でPRすることにより、団体登録され、資料の貸出しにつながった。 ・高知声と点字の図書館と連携し、さくらバリアフリー文庫をバリアフリー資料の普及・啓発のために、県内市町村立図書館や障害者施設等に団体貸出をした。 (課題) ・サービスの周知が更に必要 ⑮ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施(再掲) (成果) ・対面音訳ボランティア養成講座、ボランティアスキルアップ研修会を実施した。 (課題) ・専門的な資料に対応できるボランティアが不足している。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(2) 市町村立図書館等への支援

市町村立図書館等は、子どもが気軽に本と出会い、読書の楽しさを味わうことのできる地域に密着した施設です。オーテピア高知図書館は、市町村立図書館等が地域の中核的施設として、子どもが本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう、市町村立図書館等と連携しながら、読書活動の推進のために環境の整備、機能の充実を支援していきます。また、市町村立図書館等が行う地域の民間団体や読書ボランティア等との連携による子どもの読書活動の取組に対しても支援を行います。

計画の記載内容	
①児童書の全点購入による選書支援 市町村図書館や学校等が本の選定の際に、参考にできるよう、出版される児童書を全て購入し、展示します。また、県内での巡回展示も実施します。 ②調査研究に必要な資料の提供 市町村立図書館職員をはじめとする読書活動推進に携わる人が調査研究できる図書等を提供します。 ③市町村のニーズに応える資料の収集・提供 市町村立図書館等に対する協力貸出用の資料を収集し、提供します。 ④巡回訪問や依頼訪問等による支援 県の東部、中央、西部の各ブロックの担当司書を配置し、市町村立図書館等への巡回訪問や依頼訪問等により、運営やサービスの充実に向けた相談等の支援を行います。 ⑤協力貸出、レファレンス・サービスへの協力支援 市町村立図書館等から地域の学校等へ団体貸出できるよう、学校図書館自身、市町村図書館自身の蔵書の充実を促すとともに、児童図書をまとめて貸し出す長期一括貸出等を行います。また、市町村立図書館等の図書館資料では十分な調査・回答が困難なレファレンス・サービスへの協力や助言を行います。	
実施状況	成果と課題
①児童書の全点購入による選書支援 ・未実施 ②調査研究に必要な資料の提供 ・読書活動推進に携わる人が調査研究できる図書等を多く購入した。 ③市町村のニーズに応える資料の収集・提供 ・市町村支援や移動図書館専用の資料の収集に取り組んでいる。 ④巡回訪問や依頼訪問等による支援 ・訪問による業務相談や出張研修を実施した。 ⑤協力貸出、レファレンス・サービスへの協力支援 ・学校の授業等でニーズの高い資料の収集・提供に努めている。	①児童書の全点購入による選書支援 (課題) 全点購入した児童書の展示、その後の巡回展示の準備を行う必要がある。 ②調査研究に必要な資料の提供 (成果) ・調査研究用図書の購入冊数:419冊(H30.3末時点) (課題) ・調査研究用図書の購入を継続し充実をはかる。 ③市町村のニーズに応える資料の収集・提供 (成果) ・蔵書冊数:46,969冊 (課題) ・継続的な収集により、更なる充実が必要である。 ④巡回訪問や依頼訪問等による支援 (成果) ・訪問回数:のべ40回 研修回数:9回 (課題) ・継続的な実施が必要である。 ⑤協力貸出、レファレンス・サービスへの協力支援 (成果) ・支援用児童書の購入冊数:443冊 (課題) ・学校図書館、市町村図書館自身の蔵書の充実が必要である。
①児童書の全点購入による選書支援 ・市町村立図書館や学校図書館が図書選定の際に実際に見て参考にできるよう、児童図書を全点購入し、H30.9から選定見本として展示を行った。 ②調査研究に必要な資料の提供 ・読書活動推進に携わる人が調査研究できる図書等を多く購入した。 ③市町村のニーズに応える資料の収集・提供 ・市町村支援や移動図書館専用の資料の収集に取り組んでいる。 ④巡回訪問や依頼訪問等による支援 ・訪問による業務相談や職員派遣研修を実施した。 ⑤協力貸出、レファレンス・サービスへの協力支援 ・学校の授業等でニーズの高い資料の収集・提供に努めている。	①児童書の全点購入による選書支援 (成果) ・児童図書選定支援コーナーの利用:延べ22団体 75人 (課題) 全点購入した児童書の巡回展示の準備を行う必要がある。 ②調査研究に必要な資料の提供 (成果) ・調査研究用図書の購入冊数(県立図書館分。選定支援・BM除く):119冊(H31.3末時点) (課題) ・調査研究用図書の購入を継続し、充実をはかる。 ③市町村のニーズに応える資料の収集・提供 (成果) ・蔵書冊数:50,495冊 (課題) ・継続的な収集により、更なる充実が必要である。 ④巡回訪問や依頼訪問等による支援 (成果) ・訪問回数:のべ69回 依頼訪問回数:6回 (課題) ・継続的な実施が必要である。 ⑤協力貸出、レファレンス・サービスへの協力支援 (成果) ・支援用児童書の購入冊数:2,470冊(移動図書館用を含む) (課題) ・学校図書館、市町村図書館自身の蔵書の充実が必要である。
①児童書の全点購入による選書支援 ・市町村立図書館や学校図書館が図書選定の際に実際に見て参考にできるよう、児童図書を全点購入し、選定見本として展示を行った。 ・平成30年度に購入した選定支援用の図書を、県内遠隔地の3市町村で開始した。 ②調査研究に必要な資料の提供 ・読書活動推進に携わる人が調査研究できる図書等を購入した。 ③市町村のニーズに応える資料の収集・提供 ・セット貸出用や移動図書館用の資料の収集に取り組んでいる。 ・図書館を整備中の市町村に対し、長期一括貸出等による支援を行った。 ④巡回訪問や依頼訪問等による支援 ・図書館整備を進めている市町村を中心に、業務支援や職員派遣研修を行った。 ⑤協力貸出、レファレンス・サービスへの協力支援 ・学校からの依頼のうち、各市町村立図書館で十分対応できなかったものについて、図書館への協力貸出を行った。	①児童書の全点購入による選書支援 (成果) ・児童図書選定支援コーナーの利用 延べ30団体 93人 (課題) ・児童図書選定支援コーナーのPRが必要。 ②調査研究に必要な資料の提供 (成果) ・児童図書研究書の購入点数 111冊 ③市町村のニーズに応える資料の収集・提供 (成果) ・支援用図書蔵書冊数 56,003冊 ・協力貸出冊数 32,301冊 移動図書館貸出冊数 64,783冊 ④巡回訪問や依頼訪問等による支援 (成果) ・巡回訪問回数 94回 依頼訪問回数 24回 (課題) ・継続的な実施が必要である。 ⑤協力貸出、レファレンス・サービスへの協力支援 (成果) ・一括貸出冊数 4,583冊(うち学校依頼による貸出 2,754冊) (課題) ・学校図書館において授業で利用する資料を整備する必要がある。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(2) 市町村立図書館等への支援

市町村立図書館等は、子どもが気軽に本と出会い、読書の楽しさを味わうことのできる地域に密着した施設です。オーテピア高知図書館は、市町村立図書館等が地域の中核的施設として、子どもが本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう、市町村立図書館等と連携しながら、読書活動の推進のために環境の整備、機能の充実を支援していきます。また、市町村立図書館等が行う地域の民間団体や読書ボランティア等との連携による子どもの読書活動の取組に対しても支援を行います。

計画の記載内容	
⑥児童書に関する情報収集と提供 子どもに対するサービスの取組等、様々な情報を収集するとともに、市町村立図書館等へ児童書選定の参考になる情報を発信します。 ⑦企画展示の実施 市町村立図書館等における企画展示の実施を支援するため、資料やブックリストなどを一括して貸出・提供します。 ⑧相互貸借の活性化 図書館の間で、資料の貸出を行う相互貸借を活性化するため、図書館情報システム未導入の市町村立図書館等の所蔵情報を収集し、県内図書館横断システムで所蔵状況を検索できるようにします。 ⑨物流便による資料の配送(再掲) 休館日を除き、毎日、協力貸出や相互貸借の資料を市町村に配送します。 ⑩アウトリーチ・サービスの実施 県内の図書館やボランティア等と連携し、読み聞かせや本の紹介等を行う出前図書館や講座を実施します。出前図書館等を通じて、市町村立図書館職員等とともに積極的に図書館の活用に向けた「提案」やサービスの「周知」を行います。	
実施状況	成果と課題
⑥児童書に関する情報収集と提供 ・SariSari通信を毎月1回発行し、収集した情報を発信した。 ⑦企画展示の実施 ・試験的に取組を開始し、手法等の検討を行っている。 ⑧相互貸借の活性化 ・図書館情報システム未導入の所蔵情報の横断検索システムによる提供は実施できていない。 ⑨物流便による資料の配送(再掲) ・計画通り実施している ⑩アウトリーチ・サービスの実施 ・オーテピア高知図書館開館後に実施を検討する。	⑥児童書に関する情報収集と提供 (成果) ・SariSari通信を毎月1回発行(ホームページにも掲載)した。 (課題) ・オーテピア高知図書館では、全点購入した児童書のリストを作成し提供する。 ⑦企画展示の実施 (成果) ・モデル館と連携し、企画展示を実施中である。 (課題) ・資料の充実と、ノウハウの蓄積が必要である。 ⑧相互貸借の活性化 未実施 ⑨物流便による資料の配送(再掲) (成果) ・発送冊数:65,825冊 ⑩アウトリーチ・サービスの実施 未実施
⑥児童書に関する情報収集と提供 ・SariSari通信を毎月1回発行し、収集した情報を発信している。 ⑦企画展示の実施 ・企画展示用の図書セットを作成している。 ⑧相互貸借の活性化 ・図書館情報システム未導入の所蔵情報の横断検索システムによる提供は実施できていない。 ⑨物流便による資料の配送(再掲) ・実施している ⑩アウトリーチ・サービスの実施 ・未実施	⑥児童書に関する情報収集と提供 (成果) ・SariSari通信を毎月1回発行(ホームページにも掲載)した。 ⑦企画展示の実施 (課題) ・資料の充実と、市町村立図書館への周知が必要である。 ⑧相互貸借の活性化 (課題) ・実施方法等を含め引き続き検討が必要である。 ⑨物流便による資料の配送(再掲) (成果) ・送付総冊数:99,019冊(返送を含む全体数) (課題) ・県立学校に対するサービスの周知が必要である。 ⑩アウトリーチ・サービスの実施 (課題) ・窓口繁忙のため、アウトリーチを実施する体制の整備が必要である。
⑥児童書に関する情報収集と提供 ・SariSari通信を発行し、本の紹介を行った。 ⑦企画展示の実施 ・セット貸出用図書に展示看板やポップを付けて提供している。 ⑧相互貸借の活性化 ・計画の必要性が低下したため実施していない ⑨物流便による資料の配送(再掲) ・継続して実施している。 ⑩アウトリーチ・サービスの実施 ・未実施	⑥児童書に関する情報収集と提供 (成果) ・SariSari通信を毎月1回発行(ホームページにも掲載)した。 ⑦企画展示の実施 (成果) ・新規セット数 43セット(1,107冊) ・セットの貸出数 のべ117セット(3,798冊) (課題) ・ブックリストの作成ができていない ⑧相互貸借の活性化 (成果) ・市町村立図書館の図書館情報システムの導入が進んでいる ⑨物流便による資料の配送(再掲) (成果) ・送付総冊数 121,044冊 ・R2年度から、全高校にサービス対象を拡充する。 (課題) ・高校に対してサービスの周知を強化する必要がある。 ⑩アウトリーチ・サービスの実施 (課題) ・アウトリーチが実施できる職員体制の整備が県・市町村ともに必要である。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(2) 市町村立図書館等への支援

市町村立図書館等は、子どもが気軽に本と出会い、読書の楽しさを味わうことのできる地域に密着した施設です。オーテピア高知図書館は、市町村立図書館等が地域の中核的施設として、子どもが本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう、市町村立図書館等と連携しながら、読書活動の推進のために環境の整備、機能の充実を支援していきます。また、市町村立図書館等が行う地域の民間団体や読書ボランティア等との連携による子どもの読書活動の取組に対しても支援を行います。

計画の記載内容	
⑪市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施 市町村立図書館の職員等に対して、高知県図書館職員研修や個別テーマに応じた研修等を実施し、人材の育成を図ります。 ⑫児童サービス研修会等の実施 市町村立図書館等の司書やその他のスタッフ向けの研修会を実施し、ボランティアや協力者等に対して、読書活動の指導や研修会等の講師ができる人材を養成します。また、ボランティアや学校関係者への講座や研修を教育委員会の学校担当関係部局と連携・協力することにより実施し、人材の育成に努めます。 ⑬図書館活用講座の実施 図書館の本の探し方・調べ方を学び、情報リテラシー(情報の収集・整理・評価・活用の方法・知識)を向上させる講座を実施します。 ⑭広報誌への掲載等 市町村立図書館等を通じて受けられる図書館サービス(市町村立図書館等への協力貸出等)の情報を市町村の発行する広報誌に掲載するなど、周知を図ります。	
実施状況	成果と課題
H29 ⑪市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施 ・図書館サービス研修は例年どおり行った。 ⑫児童サービス研修会等の実施 ・図書館サービス研修の基礎研修で行うとともに、大阪府立図書館の元司書を講師に招き、児童サービス研修を実施した。 ⑬図書館活用講座の実施 ・未実施 ⑭広報誌への掲載等 ・未実施	⑪市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施 (成果) ・研修回数:7回 受講者数:173名 (課題) ・継続的な実施と講師を務められる職員の育成が必要である。 ⑫児童サービス研修会等の実施 (成果) ・外部講師招聘研修(全3回)受講者数:のべ191名 (課題) ・定期的な実施が必要である。 ⑬図書館活用講座の実施 未実施 ⑭広報誌への掲載等 未実施
H30 ⑪市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施 オーテピア高知図書館職員研修への受入れや、職員派遣研修(どこでも研修)を実施している。 ⑫児童サービス研修会等の実施 オーテピア高知図書館職員研修への受入れを実施している。 ⑬図書館活用講座の実施 図書館の活用法や、図書館の蔵書検索、ウェブサイト、データベースなどの情報検索、情報収集、著作権に関する知識等を習得するための講座として、「図書館活用講座」を実施した。 ⑭広報誌への掲載等 ・市町村立図書館、教育委員会への働きかけを行うとともに、オーテピア高知図書館からの広報も強化している。	⑪市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施 (成果) ・図書館サービス研修(総合編):参加者35名 ・市町村図書館出張研修(2会場×2回):参加者のべ94名 ・どこでも研修:実施回数6回 ・ブロック別研修会(3会場):参加者数41名 (課題) ・職員の育成が必要である。 ⑫児童サービス研修会等の実施 (成果) ・児童サービス研修会:市町村参加者45名 (課題) ・継続的な実施が必要である。 ⑬図書館活用講座の実施 (成果) 10~3月まで延べ6回実施した。 ⑭広報誌への掲載等 (成果) ・サービスチラシを作成し、市町村立図書館等へ配布した。 ・市町村立図書館向けブログを開設した。 (課題) ・複数の広報媒体による継続的な広報が必要である。
R1 ⑪市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施 ・職員派遣研修やブロック別研修を実施している。 ⑫児童サービス研修会等の実施 ・ストーリーテリング勉強会や連続講座を開催した。 ・児童書選定支援講座を3市町で実施した。 ⑬図書館活用講座の実施 ・蔵書検索方法、本や雑誌の分類、参考図書、調べものデスク、著作権などを紹介する「図書館活用ミニ講座」を行った。 ⑭広報誌への掲載等 ・継続的に利用者への広報を依頼している。	⑪市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施 (成果) ・職員派遣研修 5回(参加者 計49人) ・ブロック別研修会 4回(参加者 計67人) ・図書館サービス研修 2回(参加者計 59人) ・児童書選定支援講座 3会場(参加者 計37人) (課題) ・研修の講師を行う職員の育成が必要である。 ⑫児童サービス研修会等の実施 (成果) ・ストーリーテリング勉強会 延べ10回 参加82人 ・楽しみながら学ぶおはなしの連続講座Ⅴ 延べ7回 参加216人 ・児童書選定支援講座 3会場(参加者 計37人) ⑬図書館活用講座の実施 (成果) ・「図書館活用ミニ講座」延べ7回 参加48人 ⑭広報誌への掲載等 (成果) ・サービスチラシを作成し、オーテピアや市町村立図書館で配布した。 ・広報誌の図書館枠で定期的に協力貸出・遠隔地返却等のサービスが周知されている。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(3) 学校図書館との連携・協力

オーテピア高知図書館では、市民図書館と県立図書館が役割分担し、県立学校等へのサービスは、県立図書館が学校図書館と連携しながら担い、子どもたちの学びを支えるとともに、図書館の運営やサービスの充実に向けた支援を行います。
高知市以外の市町村立学校は、各市町村立図書館等と県立図書館が連携・協力して支援します。また、高知県立図書館は、県内市町村立図書館等が市町村立学校を効果的に支援できるよう、技術的な助言、資料の選定への助言等を行います。

計画の記載内容	
①市町村立図書館等へのまとめ貸し 市町村立図書館等が当該の市町村立学校に図書を貸し出す際に必要な本を市町村立図書館等に貸しします。 ②訪問支援・研修 市町村立図書館等の職員と一緒に訪問を行い、運営やサービスの充実に向けた相談等の支援を行います。また、市町村立図書館等の職員やスタッフが、市町村立の学校図書館にアドバイスができるように県立図書館職員等による研修を行います。 ③パスファインダーやブックリストの作成・提供(再掲) 市町村立学校図書館等が児童・生徒に対して、適切に指導できるようにパスファインダーやブックリストを作成し、提供します。また、その作成方法についての研修を行ったり、範例となるものを提供したりします。	
実施状況	成果と課題
H29 ①市町村立図書館等へのまとめ貸し ・市町村支援専用資料の充実に向けている。 ②訪問支援・研修 ・市町村立図書館等において対応し、支援の要望があれば対応している。 ③パスファインダーやブックリストの作成・提供(再掲) ・未実施	①市町村立図書館等へのまとめ貸し (成果) ・まとめ貸し冊数(学校以外の利用も含む):6,709冊 (課題) ・学校、市町村立図書館自身の蔵書の充実が必要である。 ②訪問支援・研修 (成果) ・特記事項なし ③パスファインダーやブックリストの作成・提供(再掲) ・未実施
H30 ①市町村立図書館等へのまとめ貸し ・市町村支援専用資料の充実に向けている。 ②訪問支援・研修 ・市町村立図書館等において対応し、支援の要望があれば対応している。 ③パスファインダーやブックリストの作成・提供(再掲) ・セット貸出用図書のブックリストを作成している。	①市町村立図書館等へのまとめ貸し (成果) ・まとめ貸し冊数(学校以外の利用も含む):2,539冊 (課題) ・学校、市町村立図書館自身の蔵書の充実が必要である。 ②訪問支援・研修 (成果) ・実施回数 1回(除籍図書選定支援) (課題) ・図書館未設置町村での学校図書館支援体制の確立が必要である。 ③パスファインダーやブックリストの作成・提供(再掲) (成果) ・新規児童書セット数:5セット ・図書館未設置町村の学校に対し、買替用図書のブックリストを作成・提供。 (課題) ・セット貸出図書の充実が必要である。
R1 ①市町村立図書館等へのまとめ貸し ・一括貸出用資料の収集に取り組んでいる。 ②訪問支援・研修 ・市町村立図書館において対応し、図書館未設置町村については、要請があれば協力している。 ・児童書選定支援講座を3市町で実施した。 ③パスファインダーやブックリストの作成・提供(再掲) ・SariSari通信を発行し、本の紹介を行った。 ・テーマごとにブックリストを作成し、ウェブ・サイトに掲載した。 ・選定支援用に購入した児童書のリストを作成した。	①市町村立図書館等へのまとめ貸し (成果) ・一括貸出冊数 4,583冊(うち学校依頼による貸出 2,754冊) (課題) ・学校図書館において授業で利用する資料を整備する必要がある。 ②訪問支援・研修 (成果) ・支援実施回数 4回(小中学校図書室の除籍資料選定支援) ・児童書選定支援講座 3会場(参加者数 計37人) (課題) ・図書館未設置町村の学校への支援体制が課題である。 ③パスファインダーやブックリストの作成・提供(再掲) (成果) ・SariSari通信を毎月1回発行(ホームページにも掲載)した。 ・児童書ブックリスト 14種類 ・SLAに、選定支援用に購入した児童書のリストを提供した。 (課題) ・パスファインダーについては未着手。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

5 子どもの読書活動を推進する人材の育成

子どもの読書活動を推進するために、読書活動に携わる市町村立図書館等の専門職員の資質向上に取り組むとともに、子どもと本を結びつける人材の育成及び組織化を図ります。また、学校等には、読書活動の取組に関する先進的な情報を機会あることに紹介するとともに、読書活動の意義や重要性、学習活動との関わり等に関する研修の場を設け、学校図書館担当者等に働きかけます。

計画の記載内容		
	①読書ボランティアの養成 地域や保育所・幼稚園、学校等で読み聞かせ等を行う読書ボランティアの育成、資質向上を図るために、研修や情報交換会を実施するとともに、市町村における読書ボランティアの養成を促します。 また、読書ボランティア活動調査を隔年で行い、活動状況を把握するとともに、読書ボランティアの組織化を支援することにより、活動の活性化を図ります。 【重】・読書ボランティア養成講座 ②読書ボランティアリーダーの養成と組織化 読書ボランティアとして活動されている方々の資質向上を図るため、より専門的な研修を実施し、読書ボランティアの核となる人材を育てるとともに、県内読書ボランティアグループの組織化を図ります。 また、読書ボランティアグループが地域学校協働本部の活動に関わる仕組みづくりを進め学校と連携しながら地域全体で子どもたちを見守り育てる活動への参加を支援します。 【重】・読書ボランティア機能強化事業 ③子ども司書養成講座の実施 小・中学校における読書活動を活性化するために、子ども司書養成講座を開催し、学校図書館の環境整備や読書に関する広報・啓発に取り組む子どもの読書活動推進リーダーを育成します。 また、子ども司書と図書館司書等のつながりを強め、市町村や学校での読書環境の強化を図ります。 【重】・子ども司書養成事業	
実施状況	成果と課題	
H29	①読書ボランティアの養成 ・読書ボランティア養成講座実施 【地区別講座】 10/8 土佐清水市立市民図書館 11名、11/11 大方あかつき館 9名 9/9 高知こどもの図書館 7名、9/10 中土佐町立文化館図書室 6名 10/22 津野町立図書館虎太郎館 15名、9/30 保健福祉センター番北 8名 10/15 香南市立香我美図書館 10名、11/5 我西村立図書館 7名 【内容】 ・子どもと本を結ぶ大人の役割、選書の大切さ、読み聞かせに適した絵本等の紹介、おはなし会の実践 【全体講演会】11/23 高知県立大学 48名 講師：正置 友子氏（絵本研究者） 【出張講座】 7/13 四万十町立図書館 11名、2/1 黒瀬町子育て支援センター 26名 2/14 認定こども園にじいろ園（津野町） 33名 ②読書ボランティアリーダーの養成と組織化 ・読書ボランティアの活動の活性化による子どもの読書活動推進のため、市町村読書ボランティア調査を実施し、「高知県読書ボランティア登録簿」を作成し、市町村・学校等に配布。 ③子ども司書養成講座の実施 ・子ども司書実践報告会実施 （6/10 四万十市立中央公民館 6/24 県立図書館、7/1 安芸市防災センター） ・子ども司書養成講座実施市町村 （香南市、香美市、須崎市、中土佐町、四万十町、津野町（プレイベント））	
H30	①読書ボランティアの養成 ・読書ボランティア養成講座実施 【地区別講座】県内3地区×2回 西部：10/7 四万十町立図書館大正分館、12/16 四万十町立図書館 中部：8/9 高知こどもの図書館、10/28 高知こどもの図書館 東部：8/24 香美市基幹集落センター、11/4 香美市図書館 1 【内容】 ・子どもと本を結ぶ大人の役割、選書の大切さ、読み聞かせに適した絵本等の紹介、おはなし会の実践 【全体講演会】11/11 高知県立大学永国寺キャンパス 講師：小宮 由氏（翻訳家） 【出張講座】年2回 高知市立久重小学校、沼毛市総合社会福祉センター ②読書ボランティアリーダーの養成と組織化 ・読書ボランティアの活動の活性化による子どもの読書活動推進のため、「高知県読書ボランティア登録簿」の活用を啓発を実施。 ③子ども司書養成講座の実施 ・各市町村で子ども司書が養成されるよう、市町村教育長や読書活動担当者等へ啓発を行う。	
R1	①読書ボランティアの養成 ・読書ボランティア養成講座実施 【地区別講座】県内3地区×2回 西部：9/8 土佐清水市立市民図書館、11/3 四万十市立図書館 中部：9/1 高知こどもの図書館、10/27 いの町立図書館 東部：9/22 香美市基幹集落センター、10/20 我西村立図書館 ・子どもと本を結ぶ大人の役割、選書の大切さ、読み聞かせに適した絵本等の紹介、おはなし会の実践 【全体講演会】12/1 高知県立文学館 講師：松田 素子氏（編集者・作家） 【出張講座】年3回 7/6 香美市立図書館物部分館、7/13 高知こどもの図書館、10/13 日高町立図書館 ②読書ボランティアリーダーの養成と組織化 ・未実施 ③子ども司書養成講座の実施 養成講座を行う指導者を対象に研修・講座を実施 【ブロック別研修】 西部：11/25 四万十市立図書館、中部：9/30 いの町立図書館、東部：11/11 香南市立野市図書館 ・「FOP」に関する技術や知識について実際に作成しながら学び、児童・生徒への指導力向上を目指す。 【全体講座】2/27 オーペリア高知図書館 講師：アンドリュー・デューア教授（子ども司書推進プロジェクト代表） ・子ども司書の制度や活用事例等を学び、実施に向けた取組の拡大及び内容の充実を図る。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

5 子どもの読書活動を推進する人材の育成

子どもの読書活動を推進するために、読書活動に携わる市町村立図書館等の専門職員の資質向上に取り組むとともに、子どもと本を結びつける人材の育成及び組織化を図ります。また、学校等へは、読書活動の取組に関する先進的な情報を機会あるごとに紹介するとともに、読書活動の意義や重要性、学習活動との関わり等に関する研修の場を設け、学校図書館担当者等に働きかけます。

計画の記載内容	
④読み聞かせ研修会や講座の実施(再掲) オーテピア高知図書館では、保護者やボランティアなどを対象とした読み聞かせ研修会や講習会を実施します。 ⑤市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施(再掲) オーテピア高知図書館は、市町村立図書館の職員等に対して、高知県図書館職員研修や個別テーマに応じた研修等を実施し、人材の育成を図ります。 ⑥児童サービス研修会等の実施(再掲) オーテピア高知図書館は、市町村立図書館等の司書やその他のスタッフ向けの研修会を実施し、ボランティアや協力者等に対して読書活動の指導や研修会等の講師ができる人材を養成します。また、ボランティアや学校関係者への講座や研修を教育委員会の学校担当関係部局と連携・協力することにより実施し、人材の育成に努めます。 ⑦図書館活用講座の実施(再掲) オーテピア高知図書館は、図書館の本の探し方・調べ方を学び情報リテラシー(情報の収集・整理・評価・活用の方法・知識)を向上させる講座を実施します。 ⑧調査研究に必要な資料の提供(再掲) オーテピア高知図書館は、市町村立図書館職員をはじめとする読書活動推進に携わる人が調査研究できる図書等を提供します。	
実施状況	成果と課題
④読み聞かせ研修会や講座の実施(再掲) ・図書館サービス基礎研修(児童サービス編)にて、市町村図書館職員等を対象とした読み聞かせ研修を行った。 ⑤市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施(再掲) ・図書館サービス研修は例年どおり行った。 ⑥児童サービス研修会等の実施(再掲) ・図書館サービス研修の基礎研修で行うとともに、大阪府立図書館の元司書を講師に招き、児童サービス研修を実施した。 ⑦図書館活用講座の実施(再掲) ・未実施 ⑧調査研究に必要な資料の提供(再掲) ・読書活動推進に携わる人が調査研究できる図書等を多く購入した。	④読み聞かせ研修会や講座の実施(再掲) ・特記事項なし ⑤市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施(再掲) (成果) ・研修回数:7回 受講者数:173名 (課題) ・継続的な実施と講師を求められる職員の育成が必要である。 ⑥児童サービス研修会等の実施(再掲) (成果) ・外部講師招聘研修(全3回)受講者数:のべ191名 (課題) ・定期的な実施が必要である。 ⑦図書館活用講座の実施(再掲) ・未実施 ⑧調査研究に必要な資料の提供(再掲) (成果) ・調査研究用図書の購入冊数:419冊(H30.3現在) (課題) ・調査研究用図書の購入を継続し充実をはかる。
④読み聞かせ研修会や講座の実施(再掲) ・ストーリーテリング勉強会を開催した。 ・「楽しみながら学ぶおはなしの連続講座Ⅳ」を共催として開催した。(主催:高知市子ども読書ボランティアの会・豆の木) ⑤市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施 オーテピア高知図書館職員研修への受入れや、職員派遣研修(どこでも研修)を実施している。 ⑥児童サービス研修会等の実施 オーテピア高知図書館職員研修への受入れや、勉強会を実施している。 ⑦図書館活用講座の実施(再掲) 図書館の活用法や、図書館の蔵書検索、ウェブサイト、データベースなどの情報検索、情報収集、著作権に関する知識等を習得するための講座として、「図書館活用講座」を実施した。 ⑧調査研究に必要な資料の提供(再掲) ・読書活動推進に携わる人が調査研究できる図書等を多く購入した。	④読み聞かせ研修会や講座の実施(再掲) (成果) ・楽しみながら学ぶおはなしの連続講座Ⅳ 述べ7回 参加188人 ・ストーリーテリング勉強会 述べ7回 参加57人 ⑤市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施(再掲) (成果) ・図書館サービス研修(総合編):参加者35名 ・市町村図書館出張研修(2会場×2回):参加者のべ94名 ・どこでも研修:実施回数6回 ・ブロック別研修会(3会場):参加者数41名 (課題) ・職員の育成が必要である。 ⑥児童サービス研修会等の実施(再掲) (成果) ・児童サービス研修会:市町村参加者45名 ・ストーリーテリング勉強会:参加者数 (課題) ・継続的な実施が必要である。 ⑦図書館活用講座の実施(再掲) 10~3月まで述べ6回実施した。 ⑧調査研究に必要な資料の提供(再掲) (成果) ・調査研究用図書の購入冊数(県立図書館分。選定支援・BM除く):119冊(H31.3末時点) (課題) ・調査研究用図書の購入を継続し充実を図る。
④読み聞かせ研修会や講座の実施(再掲) ・ストーリーテリング勉強会を開催した。 ・「楽しみながら学ぶおはなしの連続講座Ⅴ」を共催として開催した。(主催:高知市子ども読書ボランティアの会・豆の木) ⑤市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施(再掲) ・職員派遣研修やブロック別研修を実施している。 ⑥児童サービス研修会等の実施(再掲) ・ストーリーテリング勉強会や連続講座を開催した。 ・児童書選定支援講座を3市町で実施した。 ⑦図書館活用講座の実施(再掲) ⑧調査研究に必要な資料の提供(再掲) ・読書活動推進に携わる人が調査研究できる図書等を購入した。	④読み聞かせ研修会や講座の実施(再掲) (成果) ・ストーリーテリング勉強会 述べ10回 参加82人 ・楽しみながら学ぶおはなしの連続講座Ⅴ 述べ7回 参加216人 ⑤市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施(再掲) (成果) ・職員派遣研修 5回(参加者 計49人) ・ブロック別研修会 4回(参加者 計67人) ・図書館サービス研修 2回(参加者計 59人) ・児童書選定支援講座 3会場(参加者 計37人) (課題) ・研修の講師を行う職員の育成が継続的に必要である。 ⑥児童サービス研修会等の実施(再掲) (成果) ・ストーリーテリング勉強会 述べ10回 参加82人 ・楽しみながら学ぶおはなしの連続講座Ⅴ 述べ7回 参加216人 ・児童書選定支援講座 3会場(参加者 計37人) ⑦図書館活用講座の実施(再掲) (成果) (課題) ⑧調査研究に必要な資料の提供(再掲) (成果) ・児童図書研究書の購入点数 111冊

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

5 子どもの読書活動を推進する人材の育成

子どもの読書活動を推進するために、読書活動に携わる市町村立図書館等の専門職員の資質向上に取り組むとともに、子どもと本を結びつける人材の育成及び組織化を図ります。また、学校等へは、読書活動の取組に関する先進的な情報を機会あるごとに紹介するとともに、読書活動の意義や重要性、学習活動との関わり等に関する研修の場を設け、学校図書館担当者等に働きかけます。

計画の記載内容	
⑨教職員等の学校図書館活用力の向上 学校図書館協議会・大学等と連携した研修会の実施を通して、学校図書館担当者等の資質向上に取り組めます。また、オーテピア高知図書館では、県立学校の教職員からの学校図書館の活用に関する相談やレファレンス(調べもの)などへの支援を行ったり、学校図書館の資料選定に役立つ情報や資料を提供します。 県教育センターでは、幼保研修において、絵本の果たす役割や読み聞かせの技術等について講義・演習を実施するとともに、若年教員研修において、学校図書館の機能を説明し、活用を推進します。	
実施状況	成果と課題
H29 ⑨教職員等の学校図書館活用力の向上 ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅰ」(5/29 参加26名) 内容:図書館管理システムの運用及び管理について ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅱ」(11/17 参加31名) 内容:講義・ワークショップ「総合的な学習の時間における「探究的な学習」のデザイン ～学校司書・司書教諭・教諭が協働するために～ 講師:国士館大学教授 桑田 てるみ氏 (教育センター) ・幼保研修において、平成29年9月26日(火)に保育技術専門講座Ⅲを実施 講師:①高知県教育委員会事務局生涯学習課 「『第三次高知県子ども読書活動推進計画』の取組について」 ②絵本学研究所 主宰 正置 友子 「乳幼児期に、絵本の果たす役割」 受講者数:198名 ・若年教員研修では、「若年教員研修のしおり」(配布冊子)に「読書活動と学校図書館」という項目で、読書活動の大切さと学校図書館の機能と利活用についての内容を掲載し、若年教員に授業において学校図書館を計画的に活用することを周知している。また、初任者研修の配置校研修においては「OJTプログラム」に、「学校図書館の活用方法及び図書利用」という研修を位置付け、各学校で学校図書館を利用した授業のあり方について研修を推進するようにしている。	⑨教職員等の学校図書館活用力の向上 (成果) ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅰ・Ⅱ」では、学校図書館の活用をテーマに、講義・ワークショップや図書館管理システムに関する研修を継続して実施した。特に、研究協議会Ⅱについては、学校図書館担当職員以外にも対象を広げ、学校図書館の組織的な活用に向け、必要な情報の共有化を図ることができた。 ・幼保研修では、研修後アンケート理解度及び活用意欲の平均値が3.65(4件法)であった。アンケートの記述から、高知県の現状や取組の様子を知ることができた。乳幼児期からの読み聞かせの大切さや保育環境について学んだことを、明日からの保育実践に生かせる研修になったと思われる。 ・若年研修では、「若年教員研修のしおり」で学校図書館を活用する意義を解説し、「OJTプログラム」によって、実際に学校図書館を利用した授業のあり方について研修をするという体制ができた。 (課題) ・学校図書館の活用率向上に向け、各教科等の年間指導計画に学校図書館の活用を組み込むなど、さらに組織的、計画的な取組を進めることが必要である。 ・幼保研修では、人格形成の基礎を培う乳幼児期に出会う絵本が、子どもの発達や興味・関心に応じた絵本であるよう、日々子ども理解の大切さを伝えていく必要がある。今後も、絵本の選定や読み聞かせの大切さについて伝えけるとともに、地域の図書館や人材を生かしながら、豊かな読書活動につながるような研修内容を工夫していく必要がある。 ・若年教員研修では、OJTプログラムにおいて、学校図書館を利用した授業等についての研修がどの程度なされているかの把握はできていない。
H30 ⑨教職員等の学校図書館活用力の向上 (高等学校課) ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅰ」(5月15日 28名) 内容:図書館管理システムの運用及び管理について ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅱ」(10月25日 19名) 内容:講義「探究的な学習と図書館」 講師:オーテピア高知図書館 専門企画員 山重壮一 氏 (教育センター) ・幼保研修において、保育技術専門講座Ⅳを実施(平成30年10月16日(火)) 講師:①高知県教育委員会事務局生涯学習課 「『第三次高知県子ども読書活動推進計画』について」 ②絵本学研究所 主宰 正置 友子 氏 「乳幼児期に、絵本の果たす役割」 受講者数:163名 ・若年教員研修では「若年教員研修のしおり」(配布冊子)に「読書活動と学校図書館」という項目で、読書活動の大切さと学校図書館の機能と利活用についての内容を掲載し、「OJTプログラム」にも「学校図書館の活用方法及び読書指導」という研修を位置づけ、各学校で学校図書館を利用した授業のあり方について研修を推進するようにしている。	⑨教職員等の学校図書館活用力の向上 (高等学校課) (成果) ・「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会Ⅰ・Ⅱ」では、学校図書館の活用をテーマに、講義や図書館管理システムに関する研修を継続して実施した。特に、研究協議会Ⅱについては、学校図書館の組織的な活用に向け、必要な情報の共有化を図ることができた。 (課題) ・学校図書館の活用率向上及び探究的な学習の充実に向け、各教科等の年間指導計画に学校図書館の活用を組み込むなど、さらに組織的、計画的な取組を進めることが必要である。 (教育センター) (成果) ・幼保研修では、講義・演習から、幼少期の絵本との出会いの大切さを知るとともに、絵本の内容をしっかりと吟味し読み聞かせをすることの大切さにも気づいた受講者が多かった。 ・初任者研修では、「若年教員研修のしおり」で学校図書館を活用する意義を解説し、「OJTプログラム」によって、実際に学校図書館を利用した授業のあり方について研修をするという体制ができた。 (課題) ・幼保研修では、読み聞かせについての園としての取組を調査し、講義内容に生かせるようにする必要がある。 ・若年教員研修では、配置校において、学校図書館を利用した授業等についての研修がどの程度なされているかの把握ができていない。
R1 ⑨教職員等の学校図書館活用力の向上 (教育センター) ・幼保研修において、保育技術専門講座Ⅳを実施(令和元年9月26日(木)) 講師:①高知県教育委員会事務局生涯学習課 「『第三次高知県子ども読書活動推進計画』について」 ②オーテピア高知図書館 専門企画員 山重壮一 氏 「良い絵本の選び方・見せ方」 受講者数:195名 ・若年教員研修では「若年教員研修のしおり」(配布冊子)に「読書活動と学校図書館」という項目で、読書活動の大切さと学校図書館の機能と利活用についての内容を掲載し、「OJTプログラム」にも「学校図書館の活用方法及び読書指導」という研修を位置付け、各学校で学校図書館を利用した授業の在り方についての研修を行うようにしている。	⑨教職員等の学校図書館活用力の向上 (教育センター) (成果) ・幼児教育における読書の大切さや読み聞かせの仕方や環境等についてすぐに実践に取り入れることのできる内容の研修となった。 ・初任者研修配置校研修では、「若年教員研修のしおり」を用いて学校図書館の機能や活用の意義等について学ぶ機会がある。初任者にとっては、授業における学校図書館活用の意識付けとなり、実践に結びついている。 (課題) (教育センター) ・幼保研修では、読み聞かせについての園としての取組を調査し、講義内容に生かせるようにする必要がある。 ・若年教員研修では、配置校において、学校図書館を利用した授業等についての研修がどの程度なされているかの把握ができていない。 (高等学校課) ・司書教諭及び司書を対象とした研究協議会が実施できなかった。今後は、オンラインでの開催も含め検討する必要がある。